# 法政大学学術機関リポジトリ

# HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-11-09

# 沖縄本部町瀬底方言の助詞

# 内間, 直仁

```
(出版者 / Publisher)
法政大学沖縄文化研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
琉球の方言 / 琉球の方言
(巻 / Volume)
8
(開始ページ / Start Page)
31
(終了ページ / End Page)
104
(発行年 / Year)
1983-12-20
(URL)
https://doi.org/10.15002/00012726
```

# 沖縄本部町瀬底方言の助詞

# 内間直仁

#### 1 はじめに

現代共通語においても、助詞のはたらきについては十分に明らかにされていない。助詞が構文上重要なはたらきをしているということは誰しも認めるところであるが、構文上どのようなはたらきをしているのかということになると、各説まちまちである。助詞は観念語と観念語の関係を示す関係語(山田孝雄)、文節を構成する付属語(橋本進吉)、話手の立場を表現する語(時枝誠記)、実質概念と実質概念の関係を示し、文の成分を構成する関係構成語(渡辺実)などと、各文法論によってみかたが異なってくる。

助詞のみかたがこのように各文法論で異なるのは、助詞が文の構造と密接にかかわっているからである。従って、助詞の研究は、同時に文の構造をどうとらえるか、文とはなにかという文法上の難問に逢着せざるをえないことになる。文とその構造のとらえ方によって、助詞の分類やそのはたらきについてのみかたも異なってくる。助詞の研究で定説が見出しがたい要因の一つがそこにある。

共通語における助詞の研究は概略以上のようであるが、琉球方言における助詞の研究は、まだ各地域の共時的実態を報告する段階である。 琉球方言における助詞研究の基礎として、各地域の実態を明らかにすることは重要である。これまでも諸先学によってあるていど明らかにさ れてきているが、まだ十分とはいえない。本誌 『琉球の方言』でも毎回野原三義氏が各地の実 態を報告している。

これら一連の助詞研究の一助にでもなればと 考え、ここでは本部町瀬底方言の助詞について、 まだ十分に整理されているとはいえないながら も、報告を行なうことにした。資料はほとんど 筆者の内省によるものである。

#### Ⅱ 瀬底方言の助詞概説

# 1 助詞の種類

瀬底方言には下記のような助詞が認められる。

- 準体助詞
   fi(の), gara(かやら,かなんぞ)
- (2) 並列助詞tu(と), nuja(のや, やら), ka(か),jara(やら), tyka(とか)
- (3) 格助詞
   ga(が), nu(が), ne¹(に, へ, ),
   ga(に, 目的), tu(と), Dgati(切i)
   (へ), hara(から), jo¹kan(より),
   ∫i(sai)(で), ne²ti(で,場所),
   ri(と,引用)
- (4) 副 助 詞
  bake:(ばかり), mari:(gari:)(ま
  で), ka(まで), niga:(など, なんぞ),
  nre:(など), kure:(ぐらい, あたり),

?atai (あたり, ぐらい), na: (ずつ, ぐらい), ntʃa:(ぽっち, だけ), tʃun (さえ), jatin (でも)

#### (5) 係助詞

ja(は), n(も), run(ぞ, なんぞ), ru(ぞ), ga(か)

# (6) 連体助詞

ga (の), nu (の)

#### (7) 接続助詞

ba(ば), ne:(と), siga(のに,けれ ども), munnu(ものを), gutui(のに), tu(ので,から), gasina:(ganna:) (ながら), saku:ja(のなら), te:kan (te:n, tin)(ても)

#### (8) 終助詞

ba:(わけ), ∫iga(のに), mu(ものを), na(な,禁止), ga(か,疑問), gaja:(かしら), ban(だもの), mi(か,疑問), ti:(~したか,過去疑問), sami(かね,たしかめ), ∫e:(~でしょう), ji:(ね), i(ni)(か,疑問), na:(か,疑問), ro:(ぞ), jo:(よ), te:(だよ,~にちがいない), sa(さ,ね,よ), ja:(ね,よ), Ça:(目下への働きかけ), sai(目上への働きかけ),ba

以上の中から、次のものは間接助詞として認 めてもよい。

ro:(ぞ), jo:(よ), te:(だよ), sa (さ, ね, よ), ja:(ね, よ), ça:(目下への働きかけ), sai(目上への働きかけ), ba(聞き手への働きかけ)

# 2. 助詞どうしの相互関係

各助詞どうしの関係としては、およそ次のよ

うなことが認められる。

(1) 準体助詞の直後には、並列助詞、格助詞、 副助詞、係助詞、連体助詞が来ることができ

haku si tu jumu si nu ?ain(書くのと読むのとがある)

∫ikai ∫i bake: muttfi?ike: (使うものばかり持って行け)

haku si ja masi ro:(書くのはよい) tui si nu mun (取る人のものだ)

(2) 並助詞の直後には、格助詞、副助詞、係助詞、連体助詞が来ることができる。

?ari: tu wan tu ga wuin(彼と私とがいる)

ti: tu Çisa tu bake: ?arajun (手 と足とばかり洗う)

?ari: tu wan tu ja wuin(彼と私とはいる)

?ari: tu ?uri: tunu naha (彼とこれとの仲

ただし、格助詞、副助詞は並列助詞の直前に 来る場合もある。

nagu Pgati tu naoa Pgati muttfiー 7ikun (名護へと那覇へ持って行く)

ti: bake: tu Çisa bake: ?arajun (手ばかりと足ばかり洗う)

(3) 格助詞の直後には、副助詞、係助詞、連体助詞が来ることができる。

?ari: ga bake: mi:n (彼がばかり見る)

?ami: nu mari: фuin (雨がまで降る) ?ari: ga ja nain (彼がはできる)

?ari: ga ru nairu (彼ができるんだ)

?uja tu nu naha (親との仲)

naφa Dgati nu mun (那覇へのもの)

ただし、副助詞は格助詞の直前に来ることも できる。

?ari: bake: ga nokojun (彼ばかりが 残る)

ki: bake: nu harijun (木ばかりが枯れる)

tʃu: mari: ne: ʔju:n(人までに言う) ʔuja niga: tu ʔikun(親などと行く) ʃidʒa mari: Þgati tiþke:sun(兄までへ手向う)

また、格助詞 hara (から)も副助詞的性格 をもち、その前後に他の格助詞が来ることがで きる。

?ja: ga hara wassen (君がから悪い) ?ja: hara ga wassen (君からが悪い) ?ami: nu hara фuin (雨がから降る) ?ami: hara nu фuiфadʒimain (雨からが降りはじめる)

?uja ne: hara ?jun (親にから言う) Sidga hara ne: ?jun(兄からに言う)

(4) 副助詞の直後には、係助詞、連体助詞が来ることができる。

midāi bake: ja numa ra n (水ばか りは飲めない)

nagu mari: ga ʔiku:ra (名護まで行 くのかしら)

saki niga: ru numu:ru (酒などを飲むのだ)

jama bake: nu fima: (山ばかりの島)
nagu mari: nu mitfi (名護までの道)
副助詞の前後には並列助詞,格助詞が来ることができる。

#### 並列助詞一副助詞

ma: tu ʔuʃi tu bake: ʃikanajun (馬と牛ばかり飼う) ti: nuja Çisa nuja mari: ?arajun (手やら足やらまで洗う)

# 格助詞一副助詞

?uja tu bake: ?ikun (親とばかり行く)
nagu Đgati mari: ?ikun (名護へまで行く)

#### 副助詞一並列助詞

副助詞一格助詞

Φaru bake: tu ?umi bake: ?ikun (畑ばかりと海ばかり行く)

saki bake: tuka taba:ku bake: ho:jun (酒ばかりとか煙草ばかり買う)

?uttu bake: tu ?a∫ibun (弟ばかりと 遊ぶ)

φaru mari: Đgati mutʧi?ikun (畑へまで持っていく)

また、副助詞どうしは重なることもある。 midzi bake: niga: ja numa ra n (水ばかりなどは飲めない)

midʒi bake: tʃun numa sa n (水ばかりさえ飲まさない)

nagu mari: nre: ?iki ju:sun (名 護までなど行ける)

?un ?atai ʧun nara n (これぐらいさえできない)

(5) 係助詞は、準体助詞、並列助詞、格助詞、 副助詞、接続助詞の直後に来る。

?iku ∫i ja ja∬en (行くのはたやすい) maː ka ?u∫i ka ja ∫ikanajun (馬 か牛かは飼う)

?uja ne: ja ?jun (親には言う)
nagu mari: ja ?ikun (名護までは行く)
haki: ba ja nara n ∫iga (書くといけないが)

haki ne: ga naira (書かないといけな

いかしら)

(6) 連体助詞は、準体助詞、並列助詞、格助詞、 副助詞の直後に来ることができる。

hoi ∫i nu mun je: sa (買う人のものだ)

?u∫i tuka nu t∫inu:(牛とかの角) ?uja Đgati nu mun (親へのもの) wugi bake: nu φaru (砂糖きびばかり の畑)

#### Ⅲ 瀬底方言の助詞

#### 1. 準体助詞

準体助詞は体言に準じて用いられるもので、 それのついた全体も体言あつかいをうける。

#### 1, 1 (i (o)

「i(の)は、それ自体体言的資格をもっており、どちらかといえば、むしろ形式体言的である。従って、文脈によっては、「こと」「もの」「人」などの意を表わす。

# [うける形式]

共通語の準体助詞の「の」は、活用語の連体形、連体詞、体言または体言あつかいのものをうけるが、琉球方言の si (の)は、活用語の準体形のみをうけ、体言をうけえないところに特徴がある。用例は〔接する形式〕のところで示す。

# [接する形式]

# 1) 並列助詞に接する

haku: si tu jumu: si tu nu: masse: ga (書くのと読むのとどっちがよいか)

mi: si nuja kiku: si nuja ganri: n (見るのや聞くのやたくさんある) haku: Ji ka jumu: Ji muttjiko: (書くものか読むものもってこい)

numu: Ji jara ke: Ji jara man-ri:n (飲むものやら食うのやらたくさんある) takase: Ji tuka jasse: Ji tuka ?iru?iru ?ain (高いものとか安いものとかいろいろある)

#### 2) 格助詞に接する

?juː ∫i ga suː sa(言う人がするよ) hakuː ∫i nu wa∫∫en (書く人が悪い) heːku tui ∫i neː kiːjun(早く取る 人にあげる)

ke: ʃi tu mandʒi tattun (食べると 同時に立つ)

?uja n kutu su: ∫i Đgati ki:jun (親のことをする人へあげる)

he:ku ku: ∫i hara φadzimijun (早く来る人からはじめる)

tare:ma su: ʃi joːkan jonna: ʃeː (すぐするよりゆっくりしなさい)

?ari: ga sykoi ∫i ∫i mani?a:jun (彼がつくるので間に合う)

?uriː ja hakuː ∫i ri ?juːtan (これは書くものと言っていた)

#### 3) 副助詞に接する

jumu: Si bake: muttsi?ike: (読むものばかり持っていけ)

haku: ∫i mari: jamin (書くのまでやめる)

?ari: ga ?a∫ibu ∫i niga: ja ?u− ʧyke: (彼が遊ぶものなどはおいておけ) numu ∫i nre: ?ai gaja: (飲むものな どあるかしら)

jumu: ∫i kure: ja nai su:ru(読 むことぐらいはできるでしょう) miː ʃi ʔatai ja nai suːru (見る ことぐらいはできるでしょう)

ke: Si tʃun ne:n (食べるものさえない)
numu: Si jatin ne:n (飲むものなどもない)

# 4) 係助詞に接する

haku: Si ja ?ain (書くのはある)

haku: si n ?ain (書くのもある)

haku: Ji run ?ai ne: Jimun (書く のなんぞあればいいよ)

haku: si ru ?airu (書くのがあるのだ)

haku: Si ga ?aira (書くのがあるのかしら)

# 5) 連体助詞に接する

haku: Si nu mun (書く人のものだ) tui Si ga mun (取る人のものだ)

# 1,2 gara (かやら,かなんぞ) 対象を漠然とさす意を表わす。

# [うける形式]

# 1) 疑問詞をうける

nuː gara hoːjun (なにかを買う)

ra: gara flgati ʔikun (どこかへ行く) ta: gara so:ti ʔike: (誰かつれてい

きなさい)

# 【接する形式】

# 1) 並列助詞に接する

nu: gara jara фui gara jara ?o hosen (なんとかやらかんとかやら多い)

ra: gara ka ne: ?ain jo (どこか にあるよ)

nu: gara jara фui gara jara ʔiー ʧunaʃen (なんとかやらかんとかやらで忙し い)

nu: gara tyka фui gara tyka ri tji mutjikasen (なんとかかんとかでむずか しい)

# 2) 格助詞に接する

ta: gara ga ?ikun jo: (誰かが行く

よ)

ra: gara nu jamun jo: (どこかが痛 むはずだよ)

nu: gara ne: ʧikkakijun (なにかに 躓く)

nuː gara tu heːjun (なにかと換える)

taː gara Dgati kiːjun(誰かへあげる)

ra: gara hara ku:n(どこからか来る)

nu: gara jo:kan tʃu:ʃen(なにかより 強い)

nu: gara si sukojun (なにかで作る)

ra: gara ne:ti 7asibun (どこかで遊ぶ)

nu: gara ri ?jun(なんとかという)

# 3) 副助詞に接する

nu: gara bake: ho:jun (なにかなど ばかり買う)

nu: gara mari: muttfiku: ban (な にかまで持ってくるよ)

nu: gara niga: ʔidʒaʃe: (なにかな ど出しなさい)

ra: gara nre: ?ike: (どこかなどへ行け)

nu: gara kure: ?are:sa n ni(なにかなどあるでしょう)

nu: gara ?atai ?are: sa n ni (なにかなどあるでしょう)

ra: gara na: ʔidʒitʃe: sa (どこか など行ってきたんだね)

nu: gara ʧun ne:n(なにかさえない) nu: gara jatin mutʧiko: (なにかで ももってこい)

# 4) 係助詞に接する

nu: gara ja ?ain jo:(なにかはあるよ)

nu: gara ru ?airu (なにかがあるのだ) nu: gara ga ?aira (なにがあるのかし ら)

# 5) 連体助詞に接する

nu: gara nu фuta(なにかの蓋) ra: gara nu 切u: (どこかの人)

#### 2, 並列助詞

別個で対等の概念を結びつけるはたらきがある。別個で対等であるがゆえに, 先行概念と後 行概念の入れ替えが可能である。

# 2,1 tu(と)

同趣の概念を対等の関係で列挙する。

# [うける形式]

1) 体言および準体助詞をうける

?ja: tu wan ga ?ikun (君と私が行 く)

ma: tu ?usi nu wuin(馬と牛がいる) 準体助詞の用例は「準体助詞」の項参照。

#### 2) 格助詞をうける

?ari: ga tu wan ga ?ikun(彼〈が〉 と私が行く)

ma: nu tu ?u∫i: nu ke:n (馬〈が〉 と牛が食う)

?uja ne: tu kwa: ne: ?jun(親 〈に〉と子に言う)

nagu Đgati tu naфa Đgati nu ʧu: (名護へと那覇への人)

nagu hara tu naфa hara nu tsu: (名護からと那覇からの人)

3) 副助詞をうける

me: bake: tu ?atu bake: ki:

「iki jun(前ばかりと後ばかり気をつける)

nagu mari: tu naфa mari: ?idʒikun(名護までと那覇まで行ってくる)

me: niga: tu ?atu niga: ki:
「ikire:(前などと後など気をつけなさい)
?an ?atai tu ?un ?atai ja nain
(あのぐらいとこのぐらいはできる)

ti:\fi na: tu ta:\fi na: waki jun
(一つずつと二つずつ分ける)

# 4) 接続助詞の一部をうける

hana:dzi numi: ba tu ke: ba re: gaja: (必ず飲めばと食べればであろうか)

?iki ga∫ina: tu ki: ga∫ina: juin (行きながらと来ながらよる)

#### 【接する形式】

# 1) 格助詞に接する

?ari: tu ?uri: tu ga wui sa (あれとこれとがいるよ)

?amiː tu hadʒi tu nu tʃuːʃen (雨 と風とが軸い)

?uja: tu tso:re: tu ne: ?jun(親と 兄弟とに言う)

tugu**:tj**i tu nagu tu Đgati 7ikun (渡久地と名護とへ行く)

nagu: tu naфa tu hara ku:n (名護 と那覇とから来る)

?ari: tu ?uri: tu jo:kan taka∫en (あれとこれとより高い)

kumi: tu mugi: tu si sykojun (米と麦とで作る)

nagu: tu naфa tu ne:ti ho:jun (名護と那覇とで買う)

nagu: tu naфa tu ri ?jun (名護と

# 那覇とと言う)

#### 2) 副助詞に接する

ti: tu Çisa tu bake: ?arajun (手 と足とばかり洗う)

ti: tu Çisa tu mari: ?arajun (手と足とまで洗う)

ti: tu Çisa tu niga: jamasun (手 と足となど痛める)

?u∫i: tu ma: tu nre: ∫ikanajun (牛 と馬となど飼う)

?u∫i: tu ma: tu kure: ja ∫įkana jun (牛と馬とぐらいは飼う)

nagu: tu naфa tu ?atai ja ?ikun (名護と那覇とぐらいは行く)

ti:ʧi na: tu ta:ʧi na: фagun (一つと二つずつ配る)

ti: tu Çisa tu tʃun ʔarara n (手 と足とさえ洗わない)

?ari: tu ?uri: tu jatin ∫imun(あれとこれとでもよい)

# 3) 係助詞に接する

?ja:tu wan tu ja nokoin(君と私とは残る)

?ari: tu ?uri: tu n ?ikun (あれと これとも行く)

?ari: tu ?uri: tu run ?iki ne: nara n(あれとこれとなんぞが行くといけない) ?ari: tu ?uri: tu ru so:ti?ikuru (あれとこれとをつれていくのだ)

?ari: tu ?uri: tu ga so:ti?ikura (あれとこれとをつれていくのかしら)

# 4) 連体助詞に接する

?ari: tu ?ja: tu nu naha (彼と君との仲)

# 2, 2 nuja (のや, や, やら)

同趣のものが他にもあることを言外に示しな がら、対等の事物概念や動作概念および情態概 念などを列挙する。

# 【うける形式】

# 1) 体言および準体助詞をうける

?ari nuja фuri nuja ?iʧuna∫en (あれやこれやで忙しい)

ti: nuja çisa nuja jari nara n (手やら足やら痛くてならない)

準体助詞の用例は「準体助詞」の項参照。

# 2) 活用語の終止形をうける

hakun nuja haka n nuja ri 7jun (書くのや書かないのやと言う)

takasen nuja Çikusen nuia ri ?jun (高いの低いのという)

haka sun nuja juma sun nuja ri 7jun (書かすの読ますのという)

#### 3) 格助詞をうける

?ari: ga nuja фuri: ga nuja muttjkun (あれがやらこれがやら持ってくる) ti: ne: nuja tjira ne: nuja nuikurusun (手やら足やらへぬりたくる)

kwa: tu nuja ma:ga tu nuja 7o:jun(子とやら孫とやらけんかする)

?ari Đgati nuja фuri Đgati nuja nu mun nu ?uho∫en (あれへやらこれへ やらのものが多い)

?ari hara nuja фuri hara nuja nu mun nu ?uho∫en (あれからやらこれ からやらのものが多い)

#### 4) 副助詞をうける

ti: bake: nuja Çįsa bake: nuja ri 7jun (手ばかりやら足ばかりやらという) nagu mari: nuja naфa mari: nuja

ri 7jun (名護までやら那覇までやらという) ra (豆やら芋やらなどを植えよう) ?an ?atai nuja ?un ?atai nuja ri 7jun (あのぐらいやらこのぐらいやらと いう)

tiːtʃi naː nuja taːtʃi naː nuja kubajun (一つずつとか二つずつ配る)

5) 接続助詞 gasina: (ながら)をうける。 7iki ga∫ina: nuja ki: ga∫ina: ju-

in (行きながらやら来ながらよる)

#### 【接する形式】

#### 1) 格助詞に接する

?uttu nuja ∫idza nuja ga wui mu (弟やら兄やらがいるものを)

ma: nuja ?u∫i nuja nu manri:n (馬やら牛やらが多い)

ti: nuja Çisa nuja ne: ∫ikijun (手やら足やらへつける)

∫ina nuja dzari nuja tu mandzijun(砂やら砂利やらと混ぜる)

?uttu nuja ∫idza nuja Đgati muttsi?ikun (弟やら兄やらへ持って行く)

?uttu nuja ∫idʒa nuja hara ?ja: rin (弟やら兄やらから言われる)

?i∫i nuja hani nuja jo:kan t∫u:-Sen (石やら鉄やらより強い)

kiː nuja raki nuja si sukojun(木 やら竹やらで作る)

maː nuja ?u∫i nuja ri ?jun (馬や 6牛や6という)

## 2) 副助詞に接する

ti: nuja Çisa nuja mari: jamun (手やら足やらまで痛む)

mami: nuja ?oːфa nuja niga: ?uijun (豆やら野菜やらなどを植える)

mami: nuja ?umu: nuja nre: ?ui- 2) 活用語の準体形をうける

hama nuja kwai nuja kure: ?arare (鎌やら鍬やらあたりを洗いなさい) taːtʃi nuja miːtʃi nuja ?atai фage!(二つやら三つやらぐらい配りなさい) ?ui nuja Çitsa nuja tsun wakara n (上やら下やらさえわからない)

ma: nuja ?u∫i nuja jatin ka: n (馬やら牛やらでも食わない)

# 3) 係助詞に接する

kwa: nuja ma:ga nuja ja so:ti-7ika n(子やら孫やらはつれていかない) me: nuja φu∫i nuja n wakara n (前やら後やらもわからない)

ma: nuja ?u∫i nuja run ke: ne: Jimun (馬やら牛やらなどが食えばよい) ti: nuja Çisa nuja ru ?arairu (手やら足やらを洗うのだ)

tiː nuja Çisa nuja ga ?araira (手やら足やらを洗うのかしら)

# 4) 連体助詞に接する

∫idʒa nuja ?uttu nuja nu mun ho! jun (兄やら弟やらのものを買う)

#### 2,3 ka(か)

いくつかの事物、動作、状態を列挙して、そ の中から一つをえらぶことを表わす。

# [うける形式]

1) 体言および準体助詞をうける

?ari: ja dʒinan ka sannan ka reIru (あれは次男か三男かだ) ?uriː ja ?i∫i ka hani ka reːru (これは石か鉄かだ)

準体助詞の用例は「準体助詞」の項参照。

haku: ka jumu: ka sun (書くか読むかする)

takase: ka Çikuse: ka ju: wakara n (高いのか低いのかよくわからない)

haka su ka juma su ka sun (書かせるか読ませるかする)

# 3) 格助詞をうける

?ari: ga ka wan ga ?ikun (彼がか 私が行く)

ma: nu ka ?usi: nu ke:n (馬がか牛が食う)

?uja ne: ka ?uttu ne: ?jun (親にか弟に言う)

?umuː hadʒiː ga ka wugi nagiː ga ?idʒan (芋掘りにか砂糖きび収穫に行っ た)

?uja tu ka ∫idʒa tu ?idʒeːn joː (親とか兄と行ったにちがいない)

nagu Đgati ka naфa Đgati ʔidʒan (名護へか那覇へ行った)

nagu hara ka naфa hara kuin(名護からか那覇から来る)

?ari jo:kan ka ?uri jo:kan ma∫i (あれよりかこれよりよい)

kumi: ∫i ka mugi: ∫i sukojun (米 でか麦で作る)

nagu neːti ka naфa neːti ʔujun (名護でか那覇で売る)

hakun ri ka jumun ri 7jun (書く とか読むと言う)

#### 4) 副助詞をうける

haki bake: ka jumi bake: sun(書きばかりか読みばかりする)

nagu mari: ka naфa mari: ?ikun

## (名護までか那覇まで行く)

tugu:ti niga: ka nagu niga: ?idze: sa (渡久地などか名護など行ったにち がいない)

ti: nre: ka Çisa nre: ?arare:(手 などか足など洗いなさい)

taːʧi kureː ka miːʧi kureː nain (二歳ぐらいか三歳ぐらいになる)

taːtʃi ʔatai ka miːtʃi ʔatai фagun (二つずつか三つずつ配る)

ta:tfi na: ka mi:tfi na: ki:jun (二つずつか三つずつくれる)

# 5)接続助詞の一部をうける

haki: ba ka jumi: ba ∫imu: sa (書けばか読めばよい)

?iki ga∫ina: ka ki: ga∫ina: jure: (行きながらか来ながら寄れ)

#### 【接する形式】

#### 1) 格助詞に接する

?ari: ka wan ka ga ?ikun (彼か私 かが行く)

ma: ka ?usi ka nu ke:n (馬か牛かが食う)

fidga ka ?uttu ka ne: ?itfuke:(兄 か弟かに言っておけ)

fidga ka ?uttu ka tu ?ikun (兄か 弟かと行く)

?uja ka ʧoʻrei ka Ŋgati ?iʧei sa (親か兄弟かへ言ったにちがいない) ?ui ka Çiʧa ka hara kuin(上か下 かから来る)

?uja ka t∫oːreː ka joːkan ma∫i (親か兄弟かよりよい)

kumiː ka mugiː ka ∫i sukojun(米

# か麦かで作る)

nagu ka naфa ka neīti ?aītan (名 護か那覇かで会った)

?ja: ka wan ka ri ?jun (君か私か と言っていた)

#### 2) 副助詞に接する

?uja ka·sidza ka bake: tarugakijun (親か兄弟かばかり頼りにする)

?u∫i ka ma: ka mari: ∫ikanai ju:sa n (牛か馬かまで飼うことができない) ?u∫i ka ma: ka niga: ∫ikanajun jo: (牛か馬かなど飼うよ)

taфu: ka ?ju: ka nre: ho:tiko: (蛸か魚かなど買ってこい)

taфu: ka ?ju: ka kure: ?are: sa n ni(蛸か魚かぐらいはあるはずだ)

haku: ka jumu: ka ?atai ja nain (書くか読むぐらいはできる)

ti!ti ka ta!ti ka na! kubajun (一つか二つかずつ配る)

7ari: ka 7uri: ka tʃun wakara n (あれかこれかさえわからない)

saki: ka tabaku ka jatin ho:re: (酒か煙草かでも買いなさい)

# 3) 係助詞に接する

?ja: ka wan ka ja ?ika n ne: nara (君か私かは行かなければならない) ?ari: ka ?uri: ka n wakara n (あれかこれかもわからない)

?ari: ka ?uri: ka run ?iki ne: ∫imu ∫iga (あれかこれかがなんぞ行けば よいのだが)

taou: ka ?ju: ka ru ?airu(蛸か魚 かがあるのだ)

taou: ka ?ju: ka ga ?aira (蛸か魚

かがあるのか)

# 4) 連体助詞に接する

piːdʒaː ka ?u∫i ka nu tʃinuː (山羊 か牛かの角)

# 2, 4 jara (やら)

同趣の事柄をいくつか例示する意を表わす。 【うける形式】

#### 1) 体言および準体助詞をうける

ma: jara ?usi jara manri:n(馬やら 牛やら多い)

ki: jara raki jara gadziri:n(木やら竹やらたくさん積んである)

準体助詞の用例は「準体助詞」の項参照。

# 2) 格助詞をうける

?ari: ga jara ?uri: ga jara mu tIJikun (あれがやらこれがやらもってくる) tui nu jara maja: nu jara ke:n (鳥がやら猫がやら食う)

ti: ne: jara Çisa ne: jara Sigajun (手やら足やらにつく)

7umu hadgi: ga jara kusa hai ga jara 7ikun (芋掘りにやら草刈りにやら行 く)

?uttu tu jara ∫idʒa tu jara ?ikun (弟とやら兄とやら行く)

?uja Ŋgati jara ʧo're' Ŋgati jara mutʧi?ikun (親へやら兄弟へやらもっ ていく)

kwa: hara jara ma:ga hara jara manri:n (子供からやら孫からやらたくさん いる)

# 3) 副助詞をうける

ti: bake: jara Çisa bake: jara ?arajun (手ばかりやら足ばかりやら洗う) nagu mari: jara naфa mari: jara ri クitʃi ʔikun (名護までやら那覇まで やらと言って行く)

ti: kure: jara Çisa kure: jara ?arare: (手あたりやら足あたりやら洗いな さい)

ti:\forally in a: jara ta:\forally in a: jara tuti ?ikun (一つずつやら二つずつやら取っていく)

4) 接続助詞 gasina: (ながら)をうける
?iki gasina: jara ki: gasina: jara juin (行きながらやら来ながらやらよる)
【接する形式】

#### 1) 格助詞に接する

?uttu jara ∫idʒa jara ga ?ikun (弟やら兄やらが行く)

ti: jara Çisa jara nu jari nara n (手やら足やらが痛くてならない)

Sidza jara ?uttu jara ne: haka sun (兄やら弟やらに書かせる)

to:re: jara ?itjiku jara tu tiriti ?ikun (兄弟やら従兄弟やらとつれだっ ていく)

?uttu jara ∫idʒa jara Ŋgati ?jun joː(兄やら弟やらへ言うよ)

kwa: jara ma:ga jara hara muru ?atʃimajun (子やら孫やらみんな集まる)

mugi: jara ?awa: jara jo:kan takasen (麦やら粟やらより高い)

mugi: jara ?awa: jara si sykojun (麦やら栗やらで作る)

tugu\*tji jara nagu jara ne\*ti ?a\*jun ( 渡久地やら名護やらで会う ) tugu\*tfi jara nagu jara ri ?jun ( 渡久地やら名護やらという )

# 2) 副助詞に接する

ti: jara Çisa jara bake: ?araikurusun (手やら足やらばかり洗っている) ti: jara Çisa jara mari: jamasun (手やら足やらまで痛める)

tso:re: jara ?itsjku jara niga: ku: siga (兄弟やら従兄弟やらが来るよ) ma: jara ?usi jara nre: sjkanajun (馬やら牛やらなど飼う)

me: jara фu∫i jara kure: mutt∫i− kun (前の家やら後の家やらあたりからもって くる)

mugi: jara mami: jara tsun ?uira n (麦やら豆やらさえ植えない)

?uttu jara Sidza jara jatin mu ttJike: sa n ni (弟やら兄やらでも持っ てくるのではないか)

# 3) 係助詞に接する

ma: jara ʔuʃi jara ja wataʃi juːsa n (馬やら牛やらは渡すことができ ない)

ma: jara ʔuʃi jara n watasun (馬 やら牛やらも渡す)

ma: jara ʔuʃi jara run wataʃi ju:ʃi ne: ʃimun (馬やら牛やらなんぞ 渡すことができるとよい)

ma: jara ?u∫i jara ru watasuru (馬やら牛やらを渡すのだ)

ma: jara ?usi jara ga watasura (馬やら牛やらを渡すのであろうか)

#### 4) 連体助詞に接する

kwa: jara ma:ga jara nu mun ru ?airu (子供やら孫やらのものがあるのだ)

# 2,5 tuka (とか)

事物,動作,状態などを例示的に並べあげる のに用いる。

#### [うける形式]

1) 体言および準体助詞をうける

mugi: tuka ?awa: tuka sukojun(麦とか栗とか作る)

ma: tyka pi:dʒa: tyka ∫ikanajun (馬とか山羊とか飼う)

準体助詞の用例は「準体助詞」の項参照。

2) 活用語の終止形をうける。

hakun tuka jumun tuka 7jun (書く とか読むとか言う)

takasen tuka Çikusen tuka ?jun (高いとか低いとか言う)

haka sun tuka juma sun tuka ?jun (書かせるとか読ませるとか言う)

3) 格助詞をうける

?umu hadzi: ga tuka kusa hai ga tuka Bgati ?idzan (芋掘りにとか草刈 りにとかへ行った)

?uja Đgati tyka ʧoʻreː Đgati tyka nu mun (親へとか兄弟へとかのもの)

?ari hara tuka фuri hara tuka nu mun nu ?uhosen (あれからとかこれから とかのものが多い)

4) 副助詞をうける

ti: bake: tuka Çisa bake: ?arajun (手ばかりとか足ばかり洗う)

nagu mari: tyka naфa mari: ?ikun (名護までとか那覇まで行く)

mugi niga: tyka ?awa niga: ?uijun(麦などとか粟などを植える)

?an kure! tuka ?un kure!
nai su!ru(あのぐらいとかこのぐらいできるでしょう)

7an 7atai tuka 7un 7atai ja nain (あのぐらいとかこのぐらいはできる)

ti:tji na: tuka ta:tji na: фage: (一つずつとか二つずつ配りなさい)

5)接続助詞 ba (ば), ga∫ina: (ながら)を うける。

haki: ba tuka jumi: ba wakajun (書けばとか読めばわかる)

haki gasina: tuka jumi gasina: kange: jun (書きながらとか読みながら考える)

#### 【接する形式】

# 1) 格助詞に接する

?ja: tyka wan tyka ga ?iki ne: dʒama ru nairu (君とか私とかが行くと 邪魔になるだけだ)

?wa: tuka pi:dʒa: tuka nu nakun (豚とか山羊とかが鳴く)

meː tyka φysi tyka neː ?ain (前 とか後とかにある)

?uttu tyka ∫idʒa tyka tu ?a∫ibun (弟とか兄とかと遊ぶ)

tuguːtʃi tuka nagu tuka Đgati ?idʒan (渡久地とか名護とかへ行った)

nagu tuka naфa tuka hara ku:n (名護とか那覇とかから来る)

matji tuka rawan tuka jo:kan tju:sen(松とかラワンとかより強い)

kumi: tuka mugi: tuka ∫i sukojun(米とか麦とかで作る)

nagu tuka naφa tuka neīti hoījun (名護とか那覇とかで売る)

hakun ri tuka jumun ri tuka クjuːtan (書くとか読むとか言っていた)

2) 副助詞に接する

sumu:tfi tyka fimbun tyka bake:
jumun (書物とか新聞とかばかり読む)
sakibaru tyka me:baru tyka mari:
7ikun(先畑とか前畑とかまで行く。先畑・前畑は地名)

mugi: tuka ?awa: tuka niga: ?uijun (麦とか栗とかなどを植える)
mugi: tuka ?awa: tuka nre: ?ui
sa (麦とか栗とかなどを植えるさ)
hama tuka kwai tuka kure: ?arare: (鎌とか鍬とかあたりを洗いなさい)
?ari tuka ?uri tuka ?atai ja nain (あれとかこれとかぐらいはできる)
?umu: tuka de: kuni tuka tuka ?uira n(芋とか大根とかさえ植えない)

?uttu tuka ∫idza tuka jatin so:-

tiko! (弟とか兄とかでもつれてこい)

# 3) 係助詞に接する

mami: tyka re:kuni tyka ja ?uーira n (豆とか大根とかは植えない)
mami: tyka re:kuni tyka n ?uira
n (豆とか大根とかも植えない)
?uttu tyka ∫idʒa tyka run wui
ne: ∫imun (弟とか兄とかなんぞいるとよ

mamiː tuka reːkuni tuka ru ?uiru (豆とか大根とかを植えるのだ)

mami: tyka re:kuni tyka ga 7uira (豆とか大根とかを植えるのかしら)

# 4) 連体助詞に接する

W)

?uttu tuka ∫id3a tuka nu mun ho:jun (弟とか兄とかのものを買う)

# 3,格助詞

格助詞は概念と概念との論理的関係を示すは

たらきがある。関係づけられる概念は, その相 互の関係づけによって, 内容が限定される。

# 3, 1 ga(が)

主格を表わす

# 【うける形式】

1)体言,とくに人を表わす代名詞,代名詞的 に用いられた体言および人名等をうける。

wall ga ?ikun (私が行く)

7ja: ga hakun (君が書く)

nan ga jumun (あなたが読む)

?ari: ga jumun (彼が読む)

?amma: ga ?jun (母が言う)

dzittsa: ga ?atsikajun (父が叱る)

同じ人を表わす語でも, 話手との関係がうすくなると, ga(が) や nu (が)でうけるようになる。

dzinan ga jumun (次男が読む) dzinan nu jumun (次男が読む)

2) 準体助詞をうける。

haku: Si ga wassen(書くのが悪い) ただし、haku: Si (書くの)は nu(が) にも接する。

haku: ∫i nu wa∫en(書くのが悪い) 3)並列助詞をうける。

?ari: tu ?uri: tu ga wuin(あれと これとがいる)

?uttu nuja sidza nuja ga wui ne: фanasi: nara n (弟やら兄やらがいると 話ができない)

?ari: ka wan ka ga ?ikun (彼か私 かが行く)

?ari: jara wan jara ga ?jun (彼 やら私やらが言う)

?uja tuka ∫idza tuka ga ?iː neː

kikun jo: (親とか兄とかが言うと聞くよ) (彼がでもできるとよいのだが)

4) 格助詞 hara (から)をうける。

?unu ?atu hara ga ma∬en (このあと からが面白い)

?uma hara ga mut∫ika∫en (ここからが むずかしい)

5) 副助詞をうける。

?ari baka: ga miin(彼ばかりが見る) ?ari mari: ga mi:n(彼までが見る)

?ari niga: ga nara n (彼などができ ない)

?ari ?atai ga nara n (彼ぐらいがで ki: nu harijun (木が枯れる) きない)

tJun(さえ) jatin(でも) はうけること ができない。

#### 【接する形式】

1) 格助詞 hara(から)に接する。

?ari: ga hara ?jun (彼がから言う) ?ja: ga hara фadzimire: (君がからは じめなさい)

2) 副助詞に接する。

?ari! ga bake! mi!n (彼がばかり見る)

?ari: ga mari: mi:n (彼がまで見る)

?ari: ga niga: miri: ba jurusa n (彼がなど見れば許さない)

?ari: ga nre: mi: ne: jurusa n jo!(彼がなどみれば許さないよ)

?ari! ga kure! mi!n jo! (彼があた り見るよ。彼がなど見るよ)

?ari: ga tʃun mi:n (彼がさえ見る)

?ari: ga jatin mi:n (彼がでも見る)

3) 係助詞に接する。

?ari: ga ja nara n (彼がはできない)

?ari! ga n nain(彼がもできる)

?ari: ga run nai ne: Simu Siga

?ari! ga ru nairu(彼ができるのだ)

?ari: ga ga naira(彼ができるのかしら)

3, 2 nu (の)

主格を表わす。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。主に人を表わす代名詞、代 名詞的に用いられた体言・人名等以外の体言 をうける。

?ami: nu фuin (雨が降る)

2) 準体助詞をうける。

haku: si nu ?ain (書くのがあるよ)

mi: ∫i nu ?ain (見るのがあるよ)

nu: gara nu ?ain(なにかがあるよ)

3) 並列助詞をうける。

hama: tu kwai tu nu 7ain (鎌と鍬 とがある)

kwa: nuja ma:ga nuja nu wuin(子 供やら孫やらがいる)

ma: ka ?wa: ka nu ke:n (馬か豚か が食う)

nu: jara фui jara nu ?uhosen (な んやらかんやらが多い)

kwa: tuka ma:ga tuka nu man ri:n (子供とか孫とかが多い)

4) 格助詞 hara (から) をうける。

ki: hara nu hari фadzimain(木から が枯れはじめる)

wugi: hara nu to:ri фadzimain (砂 糖きびから倒れはじめる)

5) 副助詞をうける。

∫i: bake: nu ?ain (巣ばかりがある)

?ami mari: nu фuin (雨までが降る)

ti: niga: nu jamun jo:(手などが痛 むはずだよ)

?an kure: nu nai ne: ma∬e: ∫iga (あのぐらいできるといいのだが)

Çįsa kure: nu jamun ja: (足などが 痛いにちがいない)

?an ?atai nu nai ne: ∫imun jo: (あのぐらいができたらよいよ)

?iku҉ti: na: nu ?ai ga (いくつずつ あるのか)

りun(さえ) jatin(でも) はうけえない。 【接する形式】

1) 格助詞 hara (から) に接する。

?ariː ja ?idʒiː nu hara tʃuː∫en (彼は意地がから強い)

?ari: ja ti: nu hara ?idʒi:n (彼は手がから出る)

2) 副助詞に接する。

tfiburu nu bake: jamun (頭がばかり痛む)

tfiburu nu mari: jamun (頭がまで痛む) ma: nu nre: ke:n jo:(馬がなど食う よ)

tfiburu nu niga: ru jamun jo: (頭がなど痛むんだよ)

ma: nu kure: ke:n jo:(馬がなど食うよ)

ma: nu 7atai фain (馬のぐらい走る)
ma: nu tʃun ka: n (馬がさえ食わない)
ma: nu jatin ka: n (馬がでも食わない)

3) 係助詞に接する。

maja: nu ja ka: n (猫がは食わない) maja: nu n ka: n (猫がも食わない) maja: nu run ke: ne: simun (猫が でも食うとよい)

maja: nu ru ke:ru (猫が食うのだ) maja: nu ga ke:ra (猫が食うのかしら)

3, 3 ne: (に)

動作・作用の帰着する目標を表わす。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。

?uja ne: ?jun (親に言う) nagu ne: wuin (名護にいる)

?uja ne: ?aʧikara ri:n (親に叱られる)

juru ne: ∫imasun (夜のうちにすます)

2) 動詞および動詞型助動詞の連用形をうける。?iki ne: juti tura fe: (行きによってくれる)

?ika ∫i ne: jura ∫e: (行かせるとき によらしなさい)

3) 準体助詞をうける。

?iku si ne: ?adzikijun (行くのにあづける)

tui Si ne: ki:jun (取るのにあげる) ta:gara ne: ?adzikijun(誰かにあづけ る)

4) 並列助詞をうける。

fidga tu 7uttu tu ne: haka sun (兄と弟にとに書かせる)

?ari nuja фuri nuja ne: ?jun (あれやらこれやらに言う)

nagu ka naфa ka ne: wuin (名護か 那覇かにいる)

ti: jara Çisa jara ne: nuin (手 やら足やらに塗る)

?uja tyka tso:re: tyka ne: ?adzikijun (親とか兄弟とかにあづける)

#### 5) 格助詞 hara (から) をうける。

?uttu hara ne: tura ∫e: (弟からへ あげなさい)

tudgi hara ne: ?jun (妻からへ言う)

# 6) 副助詞をうける。

?ari bake: ne: ?jun (彼ばかりに言う)
tʃu: mari: ne: ?jun (人までに言う)
tʃo:re: niga: ne: ?jun jo: (兄弟などに言うよ)

∫idʒa nre: ne: ?adʒikijun (兄などに あづける)

?ikuţi: kure: ne: ?idʒa: ga (いくつぐらいに行ったか)

?un ?atai neː makin naː (このぐら いに負けるか)

miːtʃi naː neː ʔidʒeː sa (三歳頃に 行ったよ)

tfun(さえ) jatin(でも) はうけえない。

7) 接続助詞 gasina!(ながら)をうける。

?iki ga∫ina: ne: ?itJyke: (行きながら言っておけ)

# 【接する形式】

# 1) 格助詞 hara (から) に接する。

ti: ne: hara ?idzitikun (手にから出てくる)

?uja ne: hara ?jun (親にから言う)

# 2) 副助詞に接する。

фaru ne: bake: wuin(畑にばかり居る)
?imi ne: mari: mi:n(夢にまで見る)
?imi ne: niga: mitfe:n jo:(夢などに見たにちがいないよ)

?uja ne: nre: tarumun (親になど頼む) ti: ne: kure: ?atajun (手になどあたる)

?an ne: ?atai makin na (彼にぐらい

#### 負けるものか)

?ama ne: ʧun ne:n (あそこにさえない) ?ama ne: jatin ne:n (あそこにでもない)

# 3) 係助詞に接する。

?ari ne: ja makin jo: (彼には負けるよ)

?ari ne! n makin(彼にも負ける)?ari ne! run maki! ne! nara n(彼になんぞ負けたらいけない)

?ari ne: ru maki:ru(彼に負けるのだ) ?ari ne: ga maki:ra (彼に負けるのか しら)

# 3, 4 ga (E)

動作・作用の目的を表わす

#### 【うける形式】

動詞および動詞型助動詞の連用形をうける。
haki: ga 7ikun (書きに行く)
naraʃi: ga ku:n (教えに来る)

haka si: ga soːti?ikun (書かせにつれていく)

#### 【接する形式】

#### 1) 並列助詞に接する。

haki: ga tu jumi: ga ?ikun (書き にと読みに行く)

mi: ga nuja ho:i ga nuja ?ikun (見にやら買いにやら行く)

?ai ga ka soːi ga ?idʒan(会いに かつれに行った)

?ui ga jara ho¹i ga jara ?ikun (売りにやら買いにやら行く)

tamun tui ga tyka kysa hai ga ikytan (薪とりにとか草刈りに行った)

2) 格助詞の一部に接する。

narai ga hara 7ikun (習いにから行く) 7uja tu mandzi 7ikun (親と一緒に行 miː ga joːkan hakiː ga ʔikuː ∫i masi (見により書きに行くのがよい)

miː ga ri ?jun (見にという)

3) 副助詞に接する。

?ai ga bake: ?ikun(会いにばかり行く) ?ai ga mari: ?ikun(会いにまで行く) ?ai ga niga: ?idze: sa (会いになど 行ったにちがいない)

?ai ga nre: ?idʒe: sa (会いになど 行ったにちがいない)

?ai ga kure! ?idze!n jo!(会いにあ たり行ったにちがいない)

?ai ga ʧun ?ika n (会いにさえ行か ない )

?ai ga jatin ?ika n (会いにでも行 かない)

4) 係助詞に接する。

?ai ga ja ?ika n (会いには行かない) ?ai ga n ?ika n(会いにも行かない) ?ai ga run ?iki ne: nara n(会い になんぞ行ってはいけない)

?ai ga ru ?ikuːru(会いに行くのだ) ?ai ga ga ?iku:ra(会いに行くのかしら) 5) 連体助詞に接する。

miː ga nu tʃuː nu manriːn (見るた めの人が多い)

figutu oume: ga nu tfu: nu ?atfimajun (仕事をさがすための人が集まる)

3,5 tu(と)

動作・作用の相手・共同者および比較の対象 などを表わす。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。

()

muka: si tu tsigajun (昔と違う)

2) ある種の形容詞語幹のくり返しをうける。 фuruburu tu sun (古々とする。人が居 なく寒々とした様)

takadaka: tu mutsagijun (高々と持ち上 げる。

3) 準体助詞をうける。

ku: si tu mandzi ?ikun (来ると同時 に行く)

nu: gara tu mandzi:n (なにかと混ぜる)

4) 並列助詞をうける。

?uja: tu ∫idʒa tu tu ?ikun (親と 兄とと行く)

kwa: nuja ma:ga nuja tu ?o:jun (子やら孫やらと喧嘩する)

?umuː ka reːkuni ka tu heːjun (芋か大根かと交換する)

kumi: jara mugi: jara tu he:jun (米やら麦やらと換える)

mugi: tuka ?awa: tuka mandzijun (米とか粟とかと混ぜる)

5) 副助詞をうける

summe: bake: tu ?asibun(祖父ばかり と遊ぶ)

summe: mari tu ?oːjun (祖父までと 喧嘩する)

∫idʒa niga: tu ?idʒe:n jo:(兄など と行ったにちがいないよ)

wubama: nre tu ?asibu sa (叔母など と遊ぶ)

?an kure: tu ja kurabira ra n (あのぐらいとは比べられない)

?an ?atai tu ja nara n (あの程度

とはつきあえない)

?ikuti: na: tu ?a:ju gaja: (何歳ず つとあうかしら)

?uppi ntʃa: tu ja he:ra n (これぽっちとは換えない)

t∫un(さえ) jati (でも)はうけえない。 【接する形式】

1) 格助詞 hara (から), jo: kan (より), ∫i (で)に接する。

kwa: tu hara фadzimajun(子供とからはじまる)

tsore: tu jorkan massen (兄弟とよりよい)

?un sigu:tu ja muфu tu si фadzimitan (この仕事は婿とではじめた)

2) 副助詞に接する。

ma:ga tu bake: ?asibun (孫とばかり 遊ぶ)

tju: tu mari: ?oːjun (人とまで喧嘩する)

rufi tu niga: ru wuin jo: (友達となど居るに違いない)

midzi tu nre: mandzitara ja nara n(水となど混ぜたらいけない)

φuru: tu kure: he:jun (畑となど換える)

mi:tJi tu na: he:jun (三つとずつ換える)

?ari: tu tʃun ?ika n (あれとさえ行 かない)

?ari: tu jatin ?ika n (あれとでも 行かない)

# 3) 係助詞に接する

tJu: tu ja ?ika n (人とは行かない) ?uja tu n ?ika n (親とも行かない) Sid3a tu run wui ne: Simu: sa (兄とでもいるとよいよ)

?uja tu ru ?iku!ru(親と行くのだ)

?uja tu ga ?ikuːra(親と行くのかしら)

4) 連体助詞に接する。

?uja tu nu naha (親との仲) ?uttu tu nu ∫iguːtu (弟との仕事)

# 3, 6 Dgati (^), t/i (^)

動作・作用の方向を表わす。方向とともに帰 着点を表わすこともある。 Dgati と tfi はほぼ 同じように用いられる。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。

nagu ngati ?ikun (名護へ行く)

ja: Ŋgati sikun (家へ着く)

mid3i pgati nain (水になる。変化の結果)

?uja Dgati ?jun (親にいう)

2) 準体助詞をうける。

Çikjai si Dgati jutikun (光るのへ寄ってくる)

jasse: si Dgati ?atsimajun (安いのへ集まる)

ra: gara figati 7ike: (どこかへ行け) 3) 並列助詞をうける。

?umi tu фaru tu Đgati ?ikun (海 と畑とへ行く)

Pari nuja фuri nuja Agati watasun (あれやらこれやらへ渡す)

tugu:tfi ka nagu ka Đgati ʔidʒan (渡久地か名護かへ行った)

?uja jara t∫o!re! jara Ŋgati фa− gun (親やら兄弟やらへ配る)

tugu: Vi tuka nagu tuka Dgati

?idʒan (渡久地とか名護とかへ行った)

4) 副助詞をうける。

?ja: bake: Dgati ?jun (君ばかりへ言う)

tudzi mari: Đgati kusamikun (妻までへ怒る)

φaru niga: pgati ?idze: sa (畑などへ行ったにちがいない)

?umi kure: Ŋgati ga ?idʒaːra (海 あたりへ行ったのかしら)

7an 7atai Agati ja nai ju:sa n (あのぐらいにはなれない)

ta:ʧi na: Đgati wakire:(二つずつへ 分けなさい)

?uppi nʧa: Ŋgati natan (これっぽっちになった)

りun(さえ) jatin(でも)はうけえない。 【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

nagu Dgati tu naфa Dgati nu mun (名護へと那覇へのもの)

?ari Đgati nuja фuri Đgati nuja nu mun (あれへやらこれへやらのもの)

tugutsi Đgati ka nugu Đgati ʔidʒan (渡久地へか名護へ行った)

kwa: Đgati jara ma:ga Đgati jara nu mun (子供へやら孫へやらのもの)

Sidza Ogati tyka ?uttu Ogati tyka nu mun (兄へとか弟へとかのもの)

2) 格助詞 hara (から), jo: kan (より), ri (と)に接する。

buppa: Dgati hara ?usagire:(おばあさんへからあげなさい)

tugutsi pgati jo:kan nagu tsi ?ike: (渡久地へより名護へ行きなさい) nagu Dgti ri 7jun (名護へという)

3) 副助詞に接する。

?umi Đgati bake: ?ikun (海へばかり 行く)

?umi Đgati mari: ?ikun (海へまで行く)

?umi Đgati niga: ja ?ika n (海へなどは行かない)

?umi pgati nre: ?idʒaːra ja nara n (海へなど行ってはいけない)

?umi Đgati kure: ?idʒe: sa(海へな ど行ったにちがいないよ)

?uma Dgati ?atai ja ?iki ju:sun (あそこへぐらいは行ける)

ta:tfi Dgati na: wakire:(二つずつへ 分けなさい)

tunai Đgati ʧun ʔika n(隣へさえ行かない)

ra: Dgati jatin 7ikun (どこへでも 行く)

4) 係助詞へ接する。

ʧu: n ja: Ŋgati ja ?aka n (人の 家へは行かない)

ra: Dgati n ?ika n (どこへも行かない)

?ama Dgati run ?iki ne: nara n (あそこへでも行ったらいけない)

tunai Đgati ru 7iku:ru (隣へ行くのだ)

tunai Đgati ga 7ikuːra (隣へ行くのかしら)

5) 連体助詞に接する。

tfuː Đgati nu mun (人へのもの) naφa Đgati nu mitfi(那覇への道)

#### 3,7 hara(から)

動作・作用の出発点を表わすのが本質である。 うける語やかかる語によっては、経由点、方法、 材料、物事の順序、範囲、原因、理由などを表 わす場合もある。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。

naφa hara ku:n(那覇から来る。出発点) juru hara фadzimijun (夜からはじめる。 出発点)

tugutsi hara nagu ngati ?ikun (渡 久地から名護へ行く。経由点)

φuni hara ?ikun (舟から行く。方法) saki ja kumi hara sukojun (酒は米 から作る。材料)

?ja: hara ?ike: (君から行きなさい。順 序)

tugutsi hara nagu mari: ?akkun (渡 久地から名護まで歩く。範囲)

?iÇi nu kutu hara ?oːjun(少しのこ とから喧嘩する。原因)

2) 活用語の連用形をうける。

?iki hara wassatan (行きから悪かった) wakase: hara kawatutan (若い頃から 変わっていた)

3) 準体助詞をうける。

haku: Si hara muttsiko: (書くのから 持ってこい)

tʃuːʃeː ʃi hara ʃi̞kareː(強いのから使 tʃuː nigaː hara ga ʔi̞attara (人な いなさい)

ra: gara hara ku:n(どこから来る)

4) 並列助詞をうける。

tiː tu Çisa tu hara ?arajun (手 と足とから洗う)

7ikun nuja 7ika n nuja hara φa-

dzimajun(行くのや行かないのやからはじま る)

?jaː ka wan ka hara ?ika n neː nara n (君か私かから行かないといけない) mi: jara фana jara hara jari kuin (目やら鼻やらから痛んでくる) tui tuka ?aÇira: tuka hara ∫ikanajun (鶏とか家鴨とかから飼う)

5) 格助詞をうける。

?ari ga hara ?i idzasun (彼がから言 い出す)

ʧu: nu hara watajun (人がから渡る) kwa: ne: hara ka: sun (子供にから 食べさせる)

tui ga hara ?ikun (取りにから行く) tudzi tu hara ?oːjun(妻とから喧嘩す る)

фaru Dgati hara 7ikun (畑へから行く) mugi: si hara sukore! (麦でから作れ) warabi ne:ti hara kawatutan (子供 の頃から変わっていた)

?ikun ri hara ?i:d3asun (行くとから 言い出す)

6) 副助詞をうける。

jamatu bake: hara kuin (大和ばかり から来る)

kwa: mari: hara フja: rin (子供か らまで言われる)

どから言われたのかしら)

Çituti nre: hara mo:Je: (蘇鉄などか ら燃やせ)

?an kure: hara ja ma:gi: ro:(あ のぐらいからは大物だぞ)

7an 7atai hara ja nain (あのぐらい

からはできる)

tiːtʃi naː hara фageː (一つずつから 配れ)

?uppi ntsa: hara sikanajun (これぽっちから育てる)

∬un(さえ) jatin(でも)はうけえない。 7) 接続助詞の一部をうける。

haki: ba hara ja juma n ne: nara n (書けばからは読まなければならない)

haki ne: hara ja ʧa:n nara n (書けばからは, どうしょうもない)

haki gasina: hara wakajun (書きなが らからわかる)

#### 【接する形式】

# 1) 並列助詞に接する。

nagu hara tu naфa hara tu nu mun je:sa (名護からと那覇からとのもの だ)

?ari hara nuja фuri hara nuja ʧassa:n ?aʧimajun (あれからやらこれか らやらたくさん集る)

he: hara ka ?aga:ri hara фutiku:n (南からか東から吹いてくる)

me: hara jara фusi hara jara ?usikurusun (前からやら後からやら押しつ ける)

?ui hara tuka Çita hara tuka ?atfimatikun (上からとか下からとか集まっ てくる)

# 2) 格助詞に接する。

sidza hara ga wasse: sa (兄からが悪い)

wata hara nu jami фadzimain (腹から が痛みはじめる) madzi tudzi hara ne: ʔje: (まず, 妻からに言いなさい)

tudzi hara tu 701 jun (妻からと喧嘩 する)

Sidza hara Đgati mutti ?ike: (兄からへ持っていけ)

tugutji hara jo:kan tu:∫en (渡久地からより遠い)

?jaː hara ri ?jun (君からという)

#### 3) 副助詞に接する。

nisi hara bake: фukun (北からばかり 吹く)

jamatu hara mari: ku:n (本土からまで来る)

minna hara nigaː kuːn joː (水納島 からなど来る)

?i:dʒima hara nre: ke: sa n ni (伊江島からなど来るはずだよ)

фaru hara kure: ke:tikun (畑からなど帰って来る)

?uma hara ?atai ja nai sa (ここからぐらいはできる)

tu: hara na: ja ?uфuttju ro: (十 歳からずつは大人だぞ)

juru hara tJun Çima neːn (夜からさえ暇がない)

piru hara jatin nai sa (昼からでも できる)

#### 4) 係助詞に接する。

juru hara ja ka: n (夜からは来ない) juru hara n ku:n(夜からも来る) juru hara run ki: ne: nara n (夜からでも来るといけない)

juru hara ru kuːru (夜から来るのだ) juru hara ga kuːra (夜から来るのか しら)

5) 連体助詞に接する。

juru hara nu figu:tu (夜からの仕事) nagu hara nu mun (名護からのもの)

3,8 joːkan (より)

比較の基準を示す。

# 〔うける形式〕

1) 体言をうける。

jama jo:kan takasen(山より高い) ?umi jo:kan фukasen(海より深い)

2) 活用語の連用形をうける。

?iki joːkan ?araː∫en (行きより荒い) takaku joːkan Çikuku ma∫i (高くより 低くがよい)

3) 準体助詞をうける。

naku: si jo:kan warai si masi(泣 くのより笑うのがよい)

ta: gara jo:kan masi(誰かよりよい)

4) 並列助詞をうける。

?ja: tu wan tu jo:kan ?ari runtʃi: ja maʃi (君と私とよりあれ一人は よい)

mugi: ka ?awa: ka jo:kan wugi: ?ui ∫i ja ma∫i (麦か栗かより砂糖きび を植えるのはよい)

ma: jara ?usi jara jo:kan ?wa: sikanai si ja masi (馬やら牛やらより 豚を飼うのがよい)

?atʧa: tuka ?asa:ti tuka jo:kan ku: ma∫i (明日とか明後日とかより今日が よい)

5) 格助詞をうける。

?ari: ga jo:kan ?ja: ga ?iku: si masi (あれがより君が行くのがよい) tui nu jo'kan pi'dʒa' nu ju'ke'n (鳥がより山羊がよく食べる)

「idʒa ne' jo'kan ?uttu ne' ?ju'

「i maʃi (兄により弟に言うのがよい)

mi' ga jo'kan ke' ga ?iku' ʃi

maʃi (見により食べに行くのがよい)

?uja tu jo'kan ruʃi tu ?iku' ʃi

maʃi (親とより友だちと行くのがよい)

「idʒa Ūgati jo'kan ?uttu Ūgati

?ju' ʃi maʃi (兄へより弟へ言うのがよい)

tugu'tʃi hara jo'kan nagu hara ke'

「imu' mu (渡久地からより名護から来れば
よいのに)

ki: si jo:kan raki: si sykore: (木でより竹で作れ)

tugutsi neːti joːkan nagu neːti ja jassen (渡久地でより名護では安い)

6) 副助詞をうける。

mi: bake: jo:kan su: ʃi ja maʃi (見るばかりよりするのはよい)

nagu mari: jo:kan ja tu:∫en (名護 までより遠い)

jikigant√aː nigaː joːkan ma√i (男た ちなどよりよい)

jinagunt∫a: nre: jo:kan ma∫i ro: (女たちなどよりいいぞ)

?i∫i kure: jo:kan tʃu:∫en (石などよ り強い)

?an ?atai jo:kan taka∫en (あのぐら いより高い)

ta:tji na: jo:kan ki:ju:sa n(二つ ずつよりあげることができない)

tJun ( さえ ) jatin (でも ) はうけえない。

7) 接続助詞 ga∫ina! をうける。

?iki ga∫ina: jo:kan ja ki: ga∫i-

na: jure:(行きながらよりは来ながら寄れ) 【接する形式】

1) 並列助詞 ka(か)に接する。

?uja joːkan ka tʃoːreː joːkan hanaːsasun (親よりか兄弟より大事にする) 2) 格助詞 neːti(で)に接する。

φaru neːti joːkan jaː neːti ma∫i

(畑でより家でよい)
negu naiti joikan takafan (名籍で

nagu ne:ti jo:kan taka∫en (名護でより高い)

3) 副助詞 nre! (re!) に接する。

nagu joːkan reː taka∫en (名護よりなんぞ高い)

?umu jo:kan re: ja∬en (芋よりなん ぞ安い)

4) 係助詞に接する。

?ari joːkan ja tʃura∫eːn (あれより は美しい)

?ari jo:kan ru ʧura∫e:ru (あれより 美しいのだ)

?ari jo:kan ga tjurase:ra (あれより 美しいのかしら)

3,9 Si(で), sai(で)

方法、材料を表わす。 Siと sai はほぼ同じように用いられる。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。

ti: Si sukojun (手で作る)

ki: Ji sukojun (木で作る)

φuni si ?ikun (舟で行く)

2) 準体助詞をうける。

ho: tiku: ∫i sai sukojun (買ってくる ので作る)

nu: gara si sukore: (なにかで作りな

さい)

3) 並列助詞をうける。

kwai tu hama: tu ∫i kijun (鍛と 鎌とで切る)

kwai nuja hama nuja ∫i kijun(鍬 やら鎌やらで切る)

ki: ka raki: ka si sukojun (木か 竹かで作る)

?i∫i jara boː jara ∫i kurusun (石やら棒やらで殺す)

basa tuka kuru:ma tuka si hajasun (馬車とか車とかで運ぶ)

4) 副助詞をうける。

habi bake: si sykojun (紙ばかりで作る)

bui mari: ∫i tatakun (鞭まででたたく) ?awa niga: ∫i sukojun jo:(栗などで 作るよ)

Çisa nre: Si kuramijun (足などで踏 が)

?an kure: ∫i ja nu:n nara n (あのぐらいではなにもできない)

?an ?atai ∫i ja nara n (あのぐら いではできない)

tai na: Si kumbun (二人ずつでしばる) ?uppi ntJa: Si ja nara n (これぽっちではできない)

りun(さえ) jatin(でも)はうけえない。 【接する形式】

並列助詞 tu(と), ka(か), tuka
 (とか)に接する。

kumi: ʃi tu mugi: ʃi sukojun (米でと麦で作る)

kumi: Si ka mugi: Si sykojun (米 でか麦で作る) ti: Si tuka Çisa: Si sagujun (手 でとか足でさぐる)

2) 格助詞 hara (から), joːkan(より), ri(と)に接する。

kwai si hara hadzijun (鍬でから耕やす)

kwai ∫i joːkan hama: ∫i kire: (鍬でより鎌で切れ)

ti: **f**i ri ?ju:tan (手でと言っていた) 3) 副助詞に接する。

hani: si bake: sykojun (鉄でばかり作る)

ka:ra si mari: sykojun (瓦でまで作る)

фuni ∫i niga: ?idze:n te: (舟でなど行ったにちがいない)

to:gumi si nre: sykojun jo:(黍でなど作るはずだよ)

ntya: fi kure: sukore: (土でなど作りなさい)

ti: Si ?atai ja nara n (手でぐら いではできない)

haja: si tsun þyka n (茅でさえ葺かない)

haja: san (茅ででも 葺けばよいのに)

4) 係助詞に接する。

kuru:ma ∫i ja ?ika n (車ではいかない)

kuru:ma si n ?ikun (車でも行く) kuru:ma si run ?iki ne: he:sen (車ででも行くと早い)

kuruːma si ru ?ikuːru (車で行くのだ) kuruːma si ga ?ikuːra (車で行くのか しら) 3, 10 neːti (で)

動作の行なわれる場所・時を表わす。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。

Jima ne:ti ma:rin (島で生れる)

Pama ne:ti jupumun (あそこで休む)

ke: ne:ti jure: (帰るときによりなさい)

2) 活用語の連用形をうける。

?iki neːti mutʧi koː (行くときに持ってこい)

waka∫e: ne:ti ?idʒan (若いときに行った)

haka si ne:ti ?je: (書かせるときに言いなさい)

3) 準体助詞をうける。

ra: gara ne:ti ?ui sa (どこかで売るよ)

ra: gara ne:ti haku:sa (どこかで書 くよ)

4) 並列助詞をうける。

?ui tu Çi∜a tu neːti ?a∫ibun (上と下とで遊ぶ)

?ui ka Çiţa ka neːti ?aʃibun (上か下かで遊ぶ)

meː jara φų∫i jara neːti ?a∫ibun (前やら後やらで遊ぶ)

nagu tuka naфa tuka neiti hoijun (名護とか那覇とかで買う)

5) 副助詞をうける。

?uri: ja tugutsi bake: ne:ti ?ujun (これは渡久地ばかりで売る)

tugutji mari: ne:ti ?ututje: sa(渡 久地までの間で落としたにちがいない) Фaru niga: ne:ti ?a:te:n jo: (畑 などで会ったにちがいないよ)

фama nre: ne:ti ?a∫ibun(浜などで遊ぶ)

matfi:ja kure: ne:ti ho:jun(店など で買う)

?un ?atai neːti ?idʒan (この年頃で 行った)

jaːtʃi naː neːti ʔagai sa (八歳ず つで入学する)

6) 接続助詞 ga∫ina: (ながら)をうける。
?iki ga∫ina: ne:ti ?itJukun (行きながらで言っておく)

# 【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

tugutfiː neːti tu nagu neːti mitʃan (渡久地でと名護で見た)

?ama neːti nuja фuma neːti nuja mugejun (あそこでやらここでやらさわぐ) meː neːti ka þuʃi neːti mugejun (前でか後でさわぐ)

фuru ne'ti jara ja' ne'ti jara
saki numikurusun(畑でやら家でやら酒を
飲みつゞける)

paru ne:ti tyka ja: ne:ti saki numun (畑でとか家で酒を飲む)

2) 格助詞 hara (から), jo kan (より), ri (と)に接する。

фaru ne ti hara jamutan (畑でから痛かった)

ja: ne:ti jo:kan jamun (家でより痛む)

ja: ne:ti ri ?jun (家でという)

3) 副助詞に接する。

∫ima neːti bakeː kurasun (島でばか り暮す) фaru ne:ti mari: jumun (畑でまで読む)

heːkata neːti nigaː фatarakun joː (南部方面で働いているよ)

?umi ne:ti nre: ?a∫irara ja nara n (海などで遊んではいけない)

tunai neːti kureː ?a∫ibun (隣などで 遊ぶ)

tunai neːti ʔatai ja ʔaʃibeː ʃimu ʃiga (隣でぐらい遊べばよいのだが)

tunai neːti t∫un ?a∫iba n(隣でさえ 遊ばない)

tunai neːti jatin ?a∫ibun (隣ででも 遊ぶ)

4) 係助詞に接する。

ja: ne:ti ja фataraka n (家では働 かない)

ja: ne:ti n фataraka n (家でも働かない)

jaː neːti run фataraki neː ∫imu ∫iga (家ででも働けばよいのだが)

ja: ne:ti ru фataraku:ru (家で働くのだ)

ja: ne:ti ga фataraku:ra (家で働くのかしら)

5) 連体助詞に接する。

naфa neiti nu kutui (那覇でのこと) jai neiti nu siguitu (家での仕事)

3, 11 ri (と)

動作・作用の内容を表わす。

[うける形式]

種々の表現内容をうける。

∫idʒa ri ʔjun (兄だという) jonna: ri ʔjun (ゆっくりだという) hakun ri 7jun (書くという)
takasen ri 7jun (高いという)
haka sun ri 7jun (書かせるという)
haki busen ri 7jun (書きたいという)
tugutji pgati ri 7jun (渡久地へという)

# [接する形式]

1) 並列助詞に接する。

hakun ri nuja haka n ri nuja
?jun (書くとやら書かないとやらいう)
?ikun ri ka ?ika sun ri ?jun
jo\*(行くとか行かせるというよ)
?ikun ri jara ?ika n ri jara
?jun (行くとやら行かないとやらいう)
wakajun ri tuka wakara n ri
tuka ?jun (わかるとかわからないととかいう)

2) 格助詞 hara (から), jo: kan (より) に接する。

фatarakun ri hara 7jun (働くとからい う)

mattun ri jo:kan ?ja: ra n (待つ とよりいえない)

3) 副助詞に接する。

?itʃuna∫en ri bake: ?jun(忙しいとば かりいう)

фago:∫en ri mari: ʔjun (きたないと までいう)

?itJunasen ri niga: ?jun jo: (忙しいとなどいうよ)

?ikun ri nre: ?i: ne: nara n(行 くとなどいうといけない)

mintsasen ri kure: ?jatte:n jo: (さわがしいとなど言われたにちがいないよ) misijun ri ?atai ja ?je: san ni (見せるとぐらいはいうでしょう)

?amma∫en ri t∫un ?ja n (体の具合が 悪いとさえいわない)

nama ?itJunasen ri jatin ?je: (今 忙しいとでもいいなさい)

4) 係助詞に接する。

kuːn ri ja ʔja n (来るとはいわない)

ku:n ri n ?jun (来るともいう) ku:n ri run ?i: ne: nara n (来 るとでもいうといけない)

kuːn ri ru ʔjuːru (来るというのだ) kuːn ri ga ʔjuːra (来るというのかし ら)

#### 4. 副助詞

上接形式にある意味を添え、用言の意義を修 飾するはたらきがある。

# 4, 1 bake:(ばかり)

事柄の範囲を限っていうのに用いる。そのため強調の意があらわれることもある。また、数量を表わす語につき、おおよその分量、程度を表わす。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。

7ami bake: фuin(雨ばかり降る)
saki bake: numun (酒ばかり飲む)
ta:tfi bake: muttfiko: (二つばかり持っ
てこい)

2) 活用語の連用形,接続形をうける。
jumi bake: sun (読みばかりする)
juri bake: wuin (読んでばかりいる)
takaku bake: nain (高くばかりなる)
takasati bake: ?ati n nu: n na—

ra n(高くてばかりあってもなんにもならない) фataraka Ji bake: sun (働かせばかり する)

фataraka tfi bake: wuin (働かせてば かりいる)

3) 準体助詞をうける。

sikai si bake: muttsi?ike: (使うものばかり持っていけ)

nu: gara bake: ?ain (つまらないものばかりある)

4) 並列助詞をうける。

∫idʒa tu ?uttu bake: wuin (兄と弟ばかりいる)

?ai nuja фui nuja bake: ?jun (あゝやらこうやらばかりいう)

ma: ka ʔuʃi ka bake: ʃikanajun (馬か牛かばかり飼う)

?ai jara фui jara bake: ?jun (あ あやらこうやらばかりいう)

?amma: tyka dʒitʧa: tyka bake: tarugakijun (母とか父とかばかり頼りにする)

5) 格助詞をうける。

?ari: ga bake: mi:n (あれがばかり見る)

maja: nu bake: ke:n (猫がばかり食う)
nagu ne: bake: wuin (名護にばかりいる)

tui ga bake: 7ikun (取りにばかり行く)

?uja tu bake: ?ikun (親とばかり行く) ?uja Ŋgati bake: ?jun (親へばかりい う)

?uja hara bake: tuin (親からばかり 取る) ti: si bake: sykojun (手でばかり作る)

tunai ne:ti bake: ?a∫ibun (隣でばかり遊ぶ)

?a∫ibun ri bake: ?jun (遊ぶとばかり 言う)

6) 副助詞をうける。

saki niga: bake: nurara ja nara n (酒などばかり飲んではいけない)

Çisa kure: bake: ?arajun (足などば かり洗う)

?an ?atai bake: ja nai su:ru (あのぐらいばかりはできるでしょう)

ti**:tj**i na: bake: ki:jun (一つずつばか りあげる)

7) 接続助詞 ga∫ina: (ながら)をうける。?iki ga∫ina: bake: juin (行きながらばかりよる)

?akki ga∫ina: bake: фana∫i: sun (歩きながらばかり話す)

#### 【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

ti: bake: tu Çisa bake: ?arajun (手ばかりと足ばかり洗う)

ti: bake: ka Çisa bake: ?arajun (手ばかりか足ばかり洗う)

?awa bake: tuka mugi: bake: ?uijun (栗ばかりとか麦ばかりを植える)

2) 格助詞に接する。

?ari bake: ga sun sun (あればかり が損する)

garasa: bake: nu ke:n (鳥ばかりが食う)

wan bake: ne: ?adʒikijun (私ばかり に預ける) miː bakeː ga ?ikun (見ばかりに行く) ?uttu bakeː tu ?a∫ibun (弟ばかりと 遊ぶ)

kwa: bake: Ŋgati ʔjun (子供ばかりへいう)

nagu bake! hara ku:n(名護ばかりから来る)

tjui bake: jo:kan tai ja ma∫i(一人 ばかりより二人はよい)

ntsa bake: Si sykojun (土ばかりで作る)

ja: bake: ne:ti ∫igu:tu sun (家ばかりで仕事する)

?ja: bake: ri ?jun(君ばかりという)

3) 副助詞に接する。

kusa bake: niga: ru tuiru (草ばか りなど取るのだ)

kusa bake: nre: hati nu: su: ga (草ばかりなど刈ってどうするのだ)

tJira bake: kure: ?arajun (顔ばかりなど洗う)

mi:tfi bake: na: wakijun (三つばかりずつ分ける)

mi: bake: **tj**un sa n (見ばかりもしない)

mi: bake: jatin sun (見ばかりでもする)

4) 係助詞に接する。

midzi bake: ja numun (水ばかりは飲む)

midzi bake: n numa ra n (水ばか りも飲めない)

midʒi bake: run numi ne: wata: ko:sun (水ばかりなんぞ飲むと腹をこわす) midʒi bake: ru numu:ru (水ばかりを 飲むのだ)

midʒi bakeː ga numuːra (水ばかり飲むのかしら)

5) 連体助詞に接する。

?ami bake: nu pi:(雨ばかりの日) ?isi bake: nu sima: (石ばかりの島)

4, 2 mari:(まで); gari:(まで) 動作・作用や状態の及ぶ限界点を示す。 mari:と gari:はほとんど同じように用いられる。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。

jamatu mari: ?ikun (本土まで行く) фaru mari: kika ri:n(畑まで聞こえる) hadzi mari: фukun (風まで吹く)

2) 動詞および動詞型助動詞の連用形,連体形,接続形をうける。形容詞および形容詞型助動詞では,その連用形をうける。

haki mari: mattyuku sa (書くまでっておくよ)

haku mari: mattyukun na (書くまで待っておくか)

ha**U**i mari tura sun (書いてまであげる)

takaku mari: nati ho:i ju:sa n (高くまでなって買うことができない)

haka si mari: mattsukun (書かせるまで待っておく)

haka su mari: mattykun (書かせるまで待っておく)

haka tfi mari: misi:n(書かせてまで見せる)

numi buku mari: nain(飲みたくまでなる)

#### 3) 準体助詞をうける。

?iku: ∫i mari: tumi:n (行くのまで 止める)

nu: gara mari: ?idʒasu ban(なにか まで出すよ)

# 4) 並列助詞をうける。

ma: tu ?usi tu mari: nusijun (馬 と牛とまで乗せる)

ti: nuja Çisa nuja mari: kumbun (手やら足やらまでしばる)

tugutfi ka nagu ka mari: ?ikun ( 渡久地か名護かまで行く )

subui jara kiDkwan jara mari: ?uijun (冬瓜やらかぼちゃやらまで植える) re:kuni tyka ?akare:kuni mari: ?uijun (大根とか人参とかまで植える)

# 5) 格助詞をうける。

?ari: ga mari: фatarakun (あれがまで働く)

hadzi nu mari: фukun(風がまで吹く)
?uja ne: mari: ?jun (親にまでいう)
?ui ga mari: ?ikun(売りにまで行く)
tu: tu mari: ?ikun(人とまで行く)
?uja Dgati mari: kutige:sun (親へ
まで口答えする)

kwa: hara mari: tuin (子供からまで 取る)

Çįsa si mari: kurami:n (足でまで踏む)

фaru ne:ti mari: ?o:jun (畑でまで 喧嘩する)

?ujun ri mari: ?jun (売るとまでいう)

#### 6) 副助詞をうける。

saki niga: mari: numatfara ja

nara n (酒などまで飲ましてはいけない)
tabaku nre: mari: фyJara ja nara
n (煙草などまで吸ってはいけない)
Çisa kure: mari: ?arajun (足などま
で洗う)

?an ?atai mari: ja nain (あのぐらい いまではできる)

ta:tʃi na: mari: ja Simun (二つず つまではよい)

t∫un (さえ) jatin (でも)はうけえない。 7) 接続助詞 ba (ば) ga∫ina: (ながら)を うける。

hana'dzi jumi' ba mari' re! gaja' (必ず読めばまでであろうか。必ず読まないといけないかしら)

?iki ga∫ina: mari: mi:n (行きながら まで見る)

#### 【接する形式】

# 1) 並列助詞に接する。

karina: mari: tu kod3a mari: ja ra: nu tu:se: ga (嘉手納までとコザ まではどちらが遠いのか)

karina: mari: nuja kod3a mari: nuja ritfi ?ikun(嘉手納までやらコザま でやらといって行く)

?ja: mari: ka wan mari: ja ?ika n ne: nara n (君までか私までは行かな ければならない)

çitidzu: mari: jara фatidzu: mari: 7ikin ri ro: (70歳までやら80歳までや ら生きるらしいよ)

фaviidzu: mari: tyka kundzu: mari: ?ikira ri: ne: masse: siga(80歳までとか90歳まで生きられるといいのだが)

2) 格助詞に接する。

?jaː mariː ga ?ika n tin ∫imuː sa (君までが行かなくてもよい)

hadzi mari: nu фuki ne: re:dzi suː sa (台風までが吹いたら大変なことに なるよ)

midzi mari: ne: kumajun (水までに困 る)

misi mari: ga 7ikun (見せまでに行く) 7uri mari: run nai ne: simun ?uja mari: tu ?o:jun(親までと喧嘩する) (それまでなんぞできたらよい) ?itʃikubi: mari: Ŋgati ?ukujun (従 兄弟たちまでへ送る)

jamatu mari: hara ku:n (本土までか ら来る)

kinnu: mari: jo:kan massen (昨日ま でよりよい)

tJina mari: ∫i kubijun (綱まででしば る)

jupane: mari: ne:ti sa n ne: nara n(夕方まででしなければならない) ?ja: mari: ri ?jun (君までといって いた)

3) 副助詞に接する。

tugutsi mari: niga: ja ?idzika n ne: nara n (渡久地までなどは行ってこ ないといけない)

nagu mari: nre: ?idzika: (名護まで など行ってこよう)

nagu mari: kure: ?ikun (名護までな ど行く)

nagu mari: ?atai ja ?iki ju:sun (名護までぐらいは行ける)

mi!tfi mari! na! wakijun (三つまで ずつ分ける)

nagu mari: tsun ?iki ju:sa n (名 護までさえ行くことができない)

nagu mariː jatin ?iki juːsun 名護まででも行くことができる)

4) 係助詞に接する。

?uri mari: ja nara n (それまでは できない)

?uri mari: n nain (それまでもでき る)

?uri mari: ru nairu (それまでしかで きない)

?uri mari: ga naira (それまでしかで きないのかしら)

5) 連体助詞に接する。

tugutsi mari: nu mitsi (渡久地までの 道)

nagu mari: nu tsu: (名護までの人)

4, 3 niga:(など, なんぞ)

事柄をそれだけに限定せず、例示的に示す意 を表わす。

# [うける形式]

1) 体言をうける。

pirunimbi niga: ja sa n (昼寝など はしない)

saki niga: numun jo:(酒など飲むよ)

2) 動詞および動詞型助動詞の連用形,接続形 をうける。形容詞および形容詞型助動詞では, その連用形をうける。

haki niga: ÇitJa:ra ja nara n(書 きなどしたらいけない)

hatji niga: wuta:ra ja nara n(書 きなどしていたらいけない)

takaku niga: nain jo: (高くなどなる でしょう)

haka Ji niga: sun (書かせなどする) haka tJi niga: wuin jo:(書かせてな どいるでしょう)

haki buku niga: nain (書きたくなど なる)

# 3) 準体助詞をうける。

jumu: si niga: ?ain te: (読むものなどあるにちがいない)

ra: gara niga: ?idze: sa (どこか行ったにちがいない)

# 4) 並列助詞をうける。

maː tu ?waː tu nigaː ∫ikanajun (馬と豚となど飼う)

maː nuja ?waː nuja niga ʃikanajun (馬やら豚やらを飼う)

ma: ka ?wa: ka niga: ∫įkanajun (馬か豚かなど飼う)

mami: jara 70: фa jara niga: ?u ijun (豆やら野菜やらなどを植える)

mami: tyka ?o:фa tyka niga: ?uijun (豆とか野菜とかなどを植える)

#### 5) 格助詞をうける。

?ari: ga niga: ?ika n (あれがなど 行かない)

?ami: nu niga: фui ne: nara n (雨がなど降るといけない)

gakko: ne: niga: wuin jo: (学校になどいるよ)

mi: ga niga: ?idze: sa (見になど 行ったにちがいないよ)

?uja tu niga: ?o:tara ja nara n (親となど喧嘩したらいけない)

ʧu: Đgati niga: ?iʧara ja nara n(人へなど言ったらいけない)

naфa hara niga: ku:n (那覇からなど

#### 来る)

kumi: ∫i niga: sykojun jo: (米でなど作るよ)

tunai ne:ti niga: ?a∫ibun(隣でなど 遊ぶ)

Çitlimun ri niga: 7jun jo: (包むとなど言うよ)

#### 6) 副助詞をうける。

saki bake: niga: nurara ja nara n (酒ばかりなど飲んではいけない)

nakidzin mari: niga: ?idze:n jo: (今帰仁までなど行ったにちがいないよ)

midzi nre: niga: hakitara ja nara n (水などかけたらいけない)

katfu:?ju: kure: niga: ?are: sa nni (鰹あたりなどあるでしょう)

?anu ?atai niga: ja nain(あのぐら いなどはできる)

ta:ʧi na: niga: ki:re:(二つずつな どあげなさい)

り (さえ), jatin (でも)はうけえない。

7)接続助詞 ba (ば), ne:(と), tu(から, ので), ga∫ina:(ながら)をうける。

haki: ba niga: ki:n jo: (書いたりななどするとあげるよ)

haki ne: niga: ?ussasun (書いたりな どすると喜ぶよ)

tsi: nu takase: tu niga: jara n gaja:(血が高いからではなかろうか) haki gasina: niga: ?itse:n jo:(書 さながらなど言ったにちがいないよ)

# 【接する形式】

#### 1) 格助詞に接する。

tJu: niga: ga ru ku:ru (人などが来るのだ)

tui niga: ga ru ke:ru (鳥なんかが 食うのだ)

tunai niga: ne: wuin (隣などにいる) mi: niga: ga ?idʒe: sa (見なんぞに 行ったにちがいない)

?uja niga: tu ?idze: sa (親なんぞと 行ったにちがいない)

фaru niga: Ŋgati ʔika nta gaja: (畑なんぞへ行かなかったかしら)

фuru niga: hara ke:ti kun jo: (畑などから帰ってくるよ)

?ju: niga: jo:kan taka∫en (魚などよ り高い)

wugi niga: Si sykojun jo: (砂糖き びなどで作るよ)

φama niga ne∶ti ?aːteː sa (浜など で会ったにちがいない)

juфumun ri niga: 7itfa:ra ja nara n (休むとなど言ってはいけない)

2) 副助詞に接する。

wugi niga: bake: ?uiti n nu: n nara n (砂糖きびばかり植えてもなにもな らない)

?ari niga: mari: so:ti ?idʒara ja tatfi su: ga(あれなどまでつれてい ったらどうするのか)

?ari niga: nre: so:ti ʧa:ra ja nara n (あれなどまでつれてきたらいけない)

?ari niga: kure: so:ti?ike:(あれなんぞあたりつれていけ)

?ari niga: ?atai ja ?idʒi:n ʃimu: sa (あれなんぞぐらいは行ってもいいよ) ta:tʃi niga: na: ja ki:re: (二つず つなどはあげなさい) ?uttu niga: t∫un ∫įkara n (弟などさえ使わない)

?uttu niga: jatin ∫ikajun (弟などでも使う)

3) 係助詞に接する。

?oːra nigaː ja ∫ikara n(畚などは使わない)

?o:ra niga: n ∫ikare: (畚なども使い なさい)

?o:ra niga: run ∫įkai ne: he:∫en (畚などでも使うと早い)

?oːra nigaː ru ∫ikairu ( 畚なんぞ使う のだ )

?o:ra niga: ga ∫ikaira ( 畚など使うの かしら )

4) 連体助詞に接する。

ma: niga: nu ki: (馬などの毛) ?usi niga: nu tsinu: (牛などの角)

4, 4 nrex(なぞ, なんぞ, でも)

事柄をそれだけに限定せず、例示的に示す意 を表わす。

# [うける形式]

1) 体言をうける。

pirunimbi nre: ʃi: ne: ʃimu ʃiga (昼寝などするとよいのだが)

?uttu nre: jarase: (弟など行かせなさい)

2) 動詞および動詞型助動詞の連用形、接続形 をうける。形容詞および形容詞型助動詞では、 その連用形をうける。

haki nre: ÇiVara ja nara n (書きなどしたらいけない)

hatji nre: wura n siga (書いてなど いないよ)

?at∫iku nre: ne:n ne: ∫imu: sa

# (暑くなどなければよいよ)

haka si nre: Çitsara ja nara n (書かせなどしたらいけない)

haka tfi nre: wura n figa (書かせ てなどいないよ)

haki buku neːn neː ʃimuː sa (書きたくなければいい)

# 3) 準体助詞をうける。

su: Si nre: ?are: sa n ni (することなどありはしないか。することなどあるでしょう)

nu: gara nre: ho:tiko: (なにかなど 買ってきなさい)

# 4) 並列助詞をうける。

fina tu bubu:rutunre: 7ai ne: fimu sa (砂と砂利とでもあるといいよ)

∫ina nuja bubu:ru nuja nre: ∫i− kai sa (砂やら砂利やらなど使うよ)

∫ina ka bubuːru ka nreː ∫ikain joː(砂か砂利かなど使うよ)

Sina jara bubu:ru jara nre: mannri:n (砂やら砂利やら多い)

∫ina tyka bubuːru tyka nreː ∫iー kaːti sykojun (砂とか砂利とか使っている)

#### 5)格助詞をうける。

?ari ga nre: dʒo:i ?ika n ∫iga (あれがなど絶対にいかないよ)

?ami nu nreː фui neː masseː siga (雨がなど降るといいのだが)

φaru ne: nre: wassite: sa (畑になど忘れたにちがいない)

mi: ga nre: ?idze: sa (見になど行ったにちがいない)

tsuː tu nreː ?oːtara ja nara n

# (人となど喧嘩したらいけない)

matfi Dgati nre: ʔidʒaːra ja nara n(町へなど行ってはいけない)

piru?atu hara nre: ku:n jo:(昼後 からでも来るよ)

?ja: jo:kan re: tʃu:∫en (君よりなど 強い)

haja: sukojun te: (茅でなど作るはずだよ)

ha: ne:ti nre: ?asirara ja nara n (池でなど遊んではいけない)

фatarakun ri nre: ?i: ba ∫imu: sa (働くとなど言えばいいよ)

# 6) 副助詞をうける。

saki bake: nre: nuri nu: n sa n (酒ばかりなんぞ飲んでなにもしない)

naфa mari: nre: ?ika nta gaja: (那覇までなど行かなかったかしら)

7imi niga: nre: mitjara ja nara n (夢など見たらいけない)

taфu kure: nre: ?are: sa n ni (蛸ぐらいなどあるでしょう)

?an ?atai nre: nain jo: (あのぐら いはできるよ)

ta:tfi na: nre: muttfi ko: (二つず つなど持ってこい)

7uppi: ntfa: nre: nai na (これぽっちしかできないのか)

**ぢ**un(さえ), jati(でも)はうけえない。

7) 接続助詞 ga∫ina: (ながら)をうける。 ?iki ga∫ina: nre: juti tura ∫e: (行きながらでもよってくれ)

#### 〔接する形式〕

1) 副助詞に接する。

midzi nre: tjun numa sa n (水など さえ飲まさない)

· kusa nre: jatin hati ko: (草などで も刈りてこい)

2) 係助詞に接する。

?uri nre: ja hatami: ju:sun (これなどはかつぐことができる)

?uri nre: n hatami: ju:sa n (これなどもかつぐことができない)

?uri nre: run hatami: ju:si ne: ʧu:ba: je: sa (これなどでもかつぐこと ができたらたいしたものだ)

?uri nre: ru hatami: ju:suru (これなどかつぐことができるのだ)

?uri nre: ga hatami: ju:sura (これなどかつぐことができるのかしら)

4,5 kure:(ぐらい,あたり,など) ある箇所を例示的に示したり,動作や状態の 程度を表わす。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。

naga:ni kure: hake: (背中あたり搔きなさい)

Çisa kure: ?arare: (足など洗いなさい)

?an kure: ja nain (あのぐらいはできる)

2) 動詞および動詞型助動詞の連用形,接続形 をうける。形容詞および形容詞型助動詞では, その連用形をうける。

фataraki kure: ∫iː neː ∫imu ∫iga (働きなどするとよいのだが)

фataratji kure: tura ji ba jimu jiga (働いてぐらいやってくれればよいのだ が)

фataraka ∫i kure: sa n ne: nara n(働かせぐらいしないといけない)

фataraka tji kure: wuin jo:(働かせ てなどいるよ)

?atjiku kure: nain te:(暑くなどなる でしょう)

7iki buku kure: nain jo:(行きたくなどなるよ)

3) 準体助詞をうける。

haku: si kure: muttsiko: (書くものなど持ってこい)

nu: gara kure ho!re! (なにかなど買いなさい)

4) 並列助詞をうける。

?ari: tu ?uri: tu kure: mutʧi-?ikun (あれとこれとなど持っていく)

?u∫i nuja maː nuja kureː manriːn (牛やら馬やらたくさんいる)

?wa: ka pi:dʒa: ka kure: ∫ikana jun(豚か山羊かなど飼う)

kwa: jara ma:ga jara kure: manri:n (子供やら孫やらなどたくさんいる) nagu tyka naфa tyka kure: ?ikun (名護とか那覇とかなど行く)

5) 格助詞をうける。

?ari ga kure: ja nain (あれがぐら いはできる)

?entfu nu kure: ke:n (ねずみがなど 食う)

jama ne: kure: wuin (山になどいる)

haki ga kure: ?ikun (書きになど行く)

?uja tu kure: ?ikun (親とあたり行く)

naфa Đgati kure: 7ikun (那覇へなど 行く)

jamatu hara kure: ku:n (本土あたり から来る)

raki: Si kure: sykojun (竹でなど作る)

фama neːti kureː ?a∫ibun (浜でなど 遊ぶ)

tudʒumin ri kure: 7ja n ti:(仕上 げるとなど言わなかったか)

6) 副助詞をうける。

wugi bake: kure: ?uijun(砂糖きびばかりなど植える)

wugi mari: kure: ?uijun(砂糖きびまでなど植える)

wata niga: kure: jamun jo: (腹など痛むはずだよ)

?an ?atai kure: nain (あのぐらいなどはできる)

mi:tji na: kure: ki:re: (三つずつぐ らいあげなさい)

tfun (さえ), jatin (でも)はうけえない。 7)接続助詞 gafina:(ながら)をうける。

?iki ga∫ina: kure: mawatiko:(行きながらでもまわってこい)

numi gasina: kure: фanasi: se:(飲みながらでも話しなさい)

#### 【接する形式】

1) 並列助詞に接する。

ti: kure: tu Çisa kure: ?arajun (手などと足など洗う)

ti: kure: nuja Çįsa kure: nuja ?arajun (手などやら足などやら洗 う)

ti kure: ka Çisa kure: ?arajun

(手などか足など洗う)

ti: kure: jara Çisa kure: jara ?arajun (手などやら足などやら洗う)

ti: kure: tuka çisa kure ?arajun(手などとか足など洗う)

2) 格助詞に接する。

dzinan kure: ga ʔikun (次男などが行 く)

maja: kure: nu ?akkun (猫などが歩く)

naφa kure: ne: wuin (那覇あたりにいる)

mi: kure: ga ?idʒe: sa (見などに行ったにちがいない)

tunai kure: tu ?asibun (隣などと遊ぶ)

фaru kure: Ŋgati ?ikun (畑などへ行く)

фaru kure: hara ke:tikun (畑あたり から帰ってくる)

naφa kure: jo:kan Çi:∫en (那覇など より寒い)

maui kure: si sykojun (松などで作る) ?ama kure: ne:ti ?asibun (あそこあたりで遊ぶ)

tudaumin ri kure: ?jun jo: (仕上 げるとなど言うよ)

3) 副助詞に接する。

midzi kure: bake: numun(水などばか り飲む)

saki kure: mari: numun (酒などまで 飲む)

saki kure: niga: numun (酒ぐらいなど飲む)

saki kure: nre: numun jo: (酒ぐら

#### いなど飲むよ)

tabaku kure: ?atai фuki: su:ru (煙 草ぐらいなど吸うはずだ)

taːʧi kureː naː ja ʔai suːru(ニ つずつぐらいはあるでしょう)

tjira: kure: tjun ?arara n (顔など さえ洗わない)

tjira: kure: jatin ?arare: (顔ぐらい でも洗え)

# 4) 係助詞に接する。

?uja kure: ja wuin jo: (親などはいるでしょう)

?uja kure¹ n wura n (親などもいない)

?uja kure: jatin wui ne: ∫imu ∫iga (親などでもいるとよいのだが)

?uja kure: ru wuiru (親などがいるのだ)

?uja kure: ga wuira (親などがいるのかしら)

#### 5) 連体助詞に接する。

tugutfi kure: nu tfu (渡久地あたりの人)

ti: kure: nu kidzi (手などの傷)

# 4,6 ?atai, hatai (ぐらい, あたり, など) 動作や状態の程度を例示的に示す。

#### 【うける形式】

#### 1) 体言をうける。

?an ?atai ja nain (あのぐらいはできる)

nagu ?atai ja ?iki juːsun (名護あ たりは行くことができる)

?un ?atai ja jumi juːsun (このぐ らいは読むことができる)

#### 2) 活用語の連体形をうける。

hakun 7atai ja nain (書くぐらいはできる)

takase:nu ?atai ja nu: n jara n (高いぐらいはなんでもない)

haka sun ?atai ja nain (書かせるぐ らいはできる)

numi bu∫eːnu ?atai·ja nidʒira riːn (飲みたいぐらいはがまんできる)

# 3) 準体助詞をうける。

tui si ?atai ja nain (取ることぐら いはできる)

?iku: ∫i ?atai ja nain (行くことぐら らいはできる)

#### 4) 並列助詞をうける。

φaru: tu ?umi tu ?atai ja ?ikun (畑と海とぐらいは行く)

mugi: nuja ?awa: nuja ?atai ja ?uijun (麦やら粟やらあたりは植える)

фaru: ka ?umi ka ?atai ja ?ikun (畑か海かぐらいは行く)

tiː jara Çisa jara ʔatai ja ʔa-rareː(手やら足やらあたりは洗いなさい)

?wa: tyka ma: tyka ?atai ja ∫i− kanajun (豚とか馬とかぐらいは飼う)

#### 5) 格助詞をうける。

?ja: ga ?atai sa nne: nara n (君があたりしなければならない)

ma: nu ?atai ja ke: sa (馬がぐらいは食うよ)

?uja ne: ?atai ja ?jun jo: (親に ぐらいは言うよ)

haki ga ?atai ja ?ike: sa n ni (書きにぐらいは行くのではないか)

?uja tu ?atai ja ?ike: sa n ni

# (親となどは行くでしょう)

?uja Đgati ?atai ja geːsa n joː (親へなどは口答えしないでしょう)

nagu hara ?atai ja ke: sa n ni (名護からあたりは来るでしょう)

kumi: Si ?atai ja sykojun jo:(米 であたりは作るよ)

tugutfi neːti ?atai ja ?ureː sa n ni (渡久地であたりは売っているでしょ う)

hakun ri ?atai ja ?jun (書くとぐら いは言うよ)

# 6) 副助詞をうける。

wugi: bake: ?atai ja ?ui ju:sun (砂糖きびばかりぐらいは植えることができる) nagu mari: ?atai ja ?iki ju:sun (名護まであたりは行くことができる)

kusa niga: ?atai ja hai ju:sun (草などぐらいは刈ることができる)

?eːku nreː ?atai ja ∫ikai juːsun (櫂などぐらいは使うことができる)

фani idzi kure: ?atai ja ?iku: ∫iga (羽地あたりぐらいは行くでしょう) mi:tJi na: ?atai wakijun(三つぐらい ずつ分ける。

りun(さえ), jatin(でも)はうけえない。【接する形式】

#### 1) 並列助詞に接する。

wan ?atai tu ?an ?atai nu mun nu ?idʒi ∫imu: gaja:(私ぐらいとあれ ぐらいのものが行っていいかしら)

?un ?atai nuja ?an ?atai nuja nu mun nu ?ohoſen (これぐらいやらあ れぐらいやらのものが多い)

?un ?atai ka ?an ?atai nu mun

je: sa (これぐらいかあれぐらいのものだよ) ?un ?atai jara ?an ?atai jara ?iru?iru ?ain(これぐらいやらあれぐらい やらいろいろある)

?an ?atai tuka ?ja: ?atai tuka ga ?iki ne: ma∬en jo: (あれぐらい とか君ぐらいとかが行けばよい)

# 2) 格助詞に接する。

?uþu̞tʧu ?atai ga ru nairu (大人あ たりができるのだ)

warabi ?atai nu nain (子供ぐらいが できる)

wara:bi ?atai ne: ?u∫e:ra rin na:(子供ぐらいに馬鹿にされるか)

?an ?atai tu ja φanasi: n nara n (あれぐらいとは話もできない)

wara:bi ?atai Dgati saki numa tJara ja nara n(子供などへ酒を飲まし てはいけない)

?an ?atai hara ja ?uфuttju ro: (あれぐらいからは大人だぞ)

?an ?atai jo:kan tʃu:ʃen(あれぐらい より強い)

?an ?atai ∫i nain na (あれぐらいできるか)

?un ?atai ne:ti jamat∫an (これぐらい の時に痛めた)

7an ?atai ri ?jun (あれぐらいという)3) 副助詞に接する。

warantsa: ?atai bake: ?atsimijun (子供たちあたりばかり集める)

warants: ?atai mari: ?atsimajun (子供たちあたりまで集まる)

nagu ?atai niga: ja ?iki ju:sun (名護あたりなどは行ける) ?un ?atai nre: nain (これぐらいはできる)

?un ?atai kure: ja nai su:ru (これあたりぐらいはできるでしょう)

ti:tji ?atai na: wappu:sun (一つぐ らいずつ分ける)

midzi ?atai tjun numa n (水ぐらい さえ飲まない)

midzi ?atai jatin nume: (水ぐらい でも飲みなさい)

#### 4) 係助詞に接する。

midzi ?atai ja numun (水ぐらいは飲む)

midzi ?atai n numa n (水ぐらいも飲まない)

midzi ?atai jatin nume: (水ぐらい でも飲みなさい)

midʒi ?atai ru numuːru (水ぐらいし か飲まない)

midzi ?atai ga numu!ra (水ぐらいしか飲まないだろうか)

#### 5) 連体助詞に接する。

wan ?atai nu mun nu nara n (私 ぐらいのものができない)

?an ?atai nu tluː ja wura n (あれぐらいの人はいない)

# 4,7 na:(ずつ)

配当する事物の等量を表わす。

#### [うける形式]

#### 1) 体言をうける。

ta:tji na: ki:jun (二つずつくれる) tjui na: ?ikun (一人ずつ行く) ?ikutji: na: tji wakiju ga(いくつず つに分けるか)

## 2) 並列助詞をうける。

ta:tfi tu mi:tfi tu na: he:jun(二 つと三つとずつ替える)

mi t i ka ju t i ka na na na in (三歳 か四歳かずつになる)

#### 3) 格助詞をうける。

?ikuţfi: tu na: he:ta ga (いくつとずつ替えたか)

?iku҉tji: Ŋgati na: waki: ga (いく つへずつ分けるか)

?iku҉ti: hara na: wakira ri: ga (いくつからずつ分けられるか)

#### 4) 副助詞をうける。

tjassa: bake: na: su: gaja:(いくらばかりずつするのかしら, どのぐらいするのかしら)

?ussa: mari: na: ru nairu (これまでずつできるのだ。これまでしかできない) mi:tfi niga: na: ja nain jo: (三歳ぐらいずつはなるはずだよ。三歳ぐらいはなるよ)

ju:tfi nre: na: ja nai su:ru (四 歳ぐらいにはなるよ)

?inu ?atai na: wakijun (同じずつぐ らいに分ける)

?uppi ntʃaː naː ru kiːju sa jaː (これぽっちずつあげるのだね)

# 〔接する形式〕

# 1) 並列助詞に接する。

ti:Vi na: tu ta:Vi na: Ŋgati waki jun( 一つずつと二つずつに分ける )

ti:tji na: nuja ta:tji na: nuja Dgati wakijun (一つずつやら二つずつや らに分ける)

ti'ti na ka ta'ti na ti wa-

kire:(一つずつか二つずつへ分けなさい)

tyuke: na: jara takke: na: jara

hajasun (一回ずつやら二回ずつやら運ぶ)

tyui na: tyka tai na: jarasun(一人ずつか二人ずつ行かせる)

#### 2) 格助詞に接する。

tJuke: na: ne: hajaJe: (一回ずつに運 びなさい)

mi:tfi na: tu he:jun(三つずつと交換 する)

ta:tji na: Dgati wakijun(二つずつへ 分ける)

ti:tji na: hara sykojun (一つずつか ら作る)

mi:tfi na: jo:kan ki: ju:sa n(三 つずつよりあげることができない)

?ikyʧi: na: ∫i sykoi ga (いくつず っで作るか)

?ikutji: na: ne:ti wakata ga (なん 歳頃にわかったか)

?ikuţţi: na: ri ?ju:ta ga(いくつず つと言っていたか)

# 3) 副助詞に接する。

ti:tji na: bake: ki:jun (一つずつば かりあげる)

ta:切i na: mari: ki:jun (二つずつま であげる)

mi:tfi na: niga: ja ki: ju:sa n (三つずつなどはあげることができない)

mi:tfi na: nre: ki:re: (三つずつなど あげなさい)

?iku҉ti: na: kure: ki:ju ga (いくつ ずつぐらいあげるのか)

?iʧjʧi: na: ?atai wakijun (五つずつ ぐらい分ける) tyuke: na: tyun hajasa n (一回ずつさえ運ばない)

tyke: na: jatin hajase: (一回ずつでも運べ)

# 4) 係助詞に接する。

tJuke: na: ja ?idziko: (一回ずつは行 てこい)

tyke: na: n ?ika n (一回ずつも行かない)

tyuke: na: run ?idʒiki: ne: ∫imun (一回でも行ってくるとよい)

tyke: na: ru ?idziku:ru (一回ずつ行って来るのだ)

**tj**uke: na: ga ?idʒiku:ra (一回ずつ行ってくるのかしら)

# 5) 連体助詞に接する。

takke: na: nu ni: nu ?ain (二回ず つの荷がある)

miːʧi naː nu tabai (三つずつの束)

# 4,8 ntʃaː(だけ,きり,ぽっち,さえ) 限度を表わす。

# [うける形式]

# 1) 体言をうける。

?uppi ntsa: nokosun na (これぽっち残すのか)

tJui ntJa: nokosun (一人だけ残す)

# 2) 準体助詞をうける。

ke: ∫i ntʃa: ja mo:kijun (食べるのだけは儲ける)

Sikai Si n切a: ja ?are: sa n ni (使うのだけはありはしないか)

# 3) 並列助詞をうける。

tusijui tu warabi tu ntsa: nokosun (老人と子供とだけ残す) ?ari: ka ?ja: ka nʧa: ja nokora nne: nara n (あれか君かだけは残らない といけない)

#### 4) 格助詞をうける。

nan ga ntja: nara mu wan ga nai mi (あなたがさえできないのに私ができるの か)

tyoːreː nu ntyaː juːsa n (兄弟がさ えよくしない)

?uttu ne: ntfa: maki jun (弟にさえ負ける)

?uja tu ntʃaː φanaʃiːsa n (親とさえ 話しない)

?uja Đgati ntʃaː ?ja n (親へさえ言 わない)

nagu hara ntʃa: ki: ba ʃimu ʃiga (名護からさえ来ればよいのに)

?uфuttu jo:kan tsa: masi re:ru(大人よりさえよいのだ)

ti:tfi fi ntfa: nu: n nara n (ー つでだけなにもできない)

piru neːti nʧa: Çiţuki neː ʃimu ta: mu (昼でさえやっておけばよかったの に)

#### 5) 副助詞をうける。

ʧui bake: nʧa: nokosa ra n (一人 ばかりだけ残せない)

nagu mari<sup>\*</sup> ntʃa<sup>\*</sup> ?iki ju<sup>\*</sup>sa n (名 護までさえ行けない)

tfui niga: ntfa: nokotara ja nara n (一人だけ残ってはいけない)

?un ?atai ntʃa: ja nu: n jara n (このぐらいだけはなんでもない)

ti:tji na: ntja: ja фage: (一つずつ だけは配りなさい)

# 〔接する形式〕

#### 1) 格助詞に接する。

ʧui nʧa: nu nokoju sa (一人だけが 残るよ)

?uppi nʧa: ne: ?oːjun na (これぽっちで喧嘩するか)

tfui ntfa: tu фana∫i:sun (一人だけと 話する)

**Vui nVa:** Dgati 7jun (一人だけへ言う)

tsui ntsa: hara ku:n (一人だけから来る)

ʧui nʧa: jo:kan ma∫i (一人だけより よい)

**t**Jui ntJa: ∫i nain na: (一人だけでで きるか)

?uppi ntfa: ri ?jun (これだけという)

2) 副助詞に接する。

?uppi ntfa: bake: ja muttfi?ika ra n (これぽっちばかりは持っていけない)

?uppi nʧa: mari: mutʧi?ikun na (これぽっちまで持っていくか)

?uppi nⅥa: niga: Çitire:(これぽっち など捨てなさい)

?uppi ntfa: nre: nokosa ra n (これだけなど残せない)

?uppi nʧa: kure: nu: su: ga (これ ぽっちぐらいどうするのか)

 ?uppi
 ntfa:
 ?atai
 ja
 nain (これぽっちぐらいはできる)

?uppi ntfa: na: nu: su: ga (これだけずつでどうするのか)

?uppi nʧa: ʧun ki:ra n (これぽっ ちさえくれない)

?uppi ntsa: jatin muttsiko: (これぽっ

ちでももってこい)

3) 係助詞に接する。

**V**ui nVa: ja nokosa n (一人だけは残 さない)

tfui ntfa: n nokora n (一人だけも残らない)

Uni nua: jatin nokosa n (一人だけでも残さない)

tui ntja: ru nokoiru (一人だけ残るのだ)

以ui nya: ga nokoira (一人だけ残るのかしら)

4) 連体助詞に接する。

?uppi nʧa: nu mun (これぽっちのもの)

tsui ntsa: nu kwa: (一人だけの子)

# 4,9 ka (まで)

限度を表わす。

# [うける形式]

動詞の連体形をうける。

haku: ka ka ntan (書くまで来なかった)

ju: kuiru ka ke:tika n (日が暮れるまで帰って来ない)

#### 【接する形式】

係助詞に接する。

haku: ka ja mattʃuːisa n (書くまでは待っていることができない)

dzi: haku ka n ka: n (字を書くまでも来ない)

?ari: ga ku: ka run mattʃi: ne: ʃimu ʃiga (彼が来るまででも待っていると いいのだが)

juː kuiru ka ru ka nteː sa (日が

暮れるまで来なかったにちがいないより

ju: kuiru ka ga ka nte:ra(日が暮れるまで来なかったのかしら)

#### 4, 10 tfun (さえ)

極端な例を示し、他の場合も当然であることを類推させる。また、その条件だけで事柄が足りることを表わす。副助詞どうしの重なりで、 いいは他の副助詞の前には来ないで、ほとん どそれらの後に来るところからすれば、係助詞 的性格ももつ助詞だと解される。

# [うける形式]

1) 体言をうける。

tya: tyun numa n (お茶さえ飲まない) ?imi tyun mira n (夢さえ見ない) ?uja tyun wuri: ba simu siga (親さえおればいいのだが)

2) 活用語の連用形、接続形をうける。

haki tJun sa: n (書きさえしない)

hatsi tsun wura n (書いてさえいない)

takaku ʧun nein (高くさえない)

takasati tʃun ʔari: ba ʃimu ʃiga (高くてさえあればよいのだが)

haka si tsun sa: n (書かせさえしない)

haka tfi tfun wura n (書かせてさえいない)

?iki buku ʧun ne:n (行きたくもない)

3) 準体助詞をうける。

?iku: ∫i ʧun wuri: ba ∫imu ∫iga (行く人さえおればいいのだが)

ra: gara tʃun so:ti?iki ne: ?iso:—sa su: ʃiga (どこかさえつれていけば喜ぶのだが)

4) 並列助詞をうける。

?ja: tu wan tu t∫un nokora nne: nara n ∫iga (君と私とさえ残らないとい けないが)

ma: nuja ?usi nuja tsun ka: n (馬 やら牛やらさえが食わない)

?uttu ka ∫idʒa ka t∫un taruma n (弟か兄かさえも頼まない)

mugi: jara ?awa: jara tʃun ?ui ju:sa n (麦やら粟やらさえ植えることが できない)

tsawan tyka mahai tyka tsun 7arara n (茶椀とかおわんとかさえ洗わない) 4)格助詞をうける。

wan ga tjun nain (私がさえできる) wara:bi nu tjun nain (子供がさえでき る)

ja: ne: tʃun wura n (家にさえいない) haki: ga tʃun ʔika n (書きにさえ行 かない)

?uja: tu tʃun ?ika n (親とさえ行かない)

nagu Dgati tjun 7ikun ro:(名護へさえ行くぞ)

naфa hara tjun ku: mu (那覇からさえ 来るものを)

φasan si tsun kira ri:n (鋏でさえ 切れる)

фaru ne ti t∫un nimbun (畑でさえ眠る)

mi:n ri tJun ʔja: n (見るとさえ言わない)

5) 副助詞をうける。

?uttu bake: tʃun wuri: ba ʃimu:sa (弟ばかりさえおればよい)

tunai mari: tJun 7ika n (隣までさえ

行かない)

saki niga: tjun numa n ne: ʃimu ʃiga (酒などさえ飲まないといいのだが) midzi nre: tjun numi ne: maʃʃe: ʃiga (水などさえ飲めばよいのだが)

?ami kure: ʧun φuri: ba ∫imu ∫iga (雨などさえ降ればよいのだが)

?an ?atai tʃun nara n (あのぐらいさえできない)

ti:ʧi na: ʧun ki:ra n (一つずつさ えくれない)

?uppi n**t/a: t/**un ne:n (これぽっちさえない)

6) 接続助詞 ba (ば), gasina:(ながら) をうける。

haki: ba ʧun ʃimun teː(書けばさえ よいのだが)

?iki ga∫ina: ʧun jura n (行きなが らさえよらない)

#### 【接する形式】

1) 副助詞 jatin (でも)に接する。

ti:Vi Vun jatin ki:ra n (一つさえ でもくれない)

midzi tjun jatin numi ne: ∫imu ∫iga (水さえでも飲むとよいのだが)

2)係助詞に接する。

?ami ʧun ja фuri: ba ∫imu ∫iga (せめて雨さえ降ればいいのだが)

?ami tjun n фura n (雨さえも降らない)

jikigangwa ʧun run wui ne: ʃimu ʃiga (男の子さえでもいるといいのだが) midʒi ʧun ga numa nra (水さえ飲まないのかしら)

# 4, 11 jatln (でも)

ある事柄を例示的に示す。例示されるものが 極端なあるいは特殊な場合は,他の場合もも ちろんであるという意を言外に表わす。 jatin も他の副助詞の前には来ないで,ほとんど他の ma: nu jatin ka: n (馬がでも食わ 副助詞の直後に来るところからすれば、係助詞 的性格も合わせもつものと解される。

# 【うける形式】

1) 体言をうける。

midzi jatin numi busen (水でも飲みた W)

waraibi jatin ?iki juisun(子供でも 行ける)

2) 活用語の連用形をうける。

haki jatin si ne: simun (書きでも するとよい)

takaku jatin ?ai ne: ʃimu ʃiga ( 髙くでもあるといいのだが )

haka Si jatin Si: ne: Simun (書か せでもするとよい)

3) 準体助詞をうける。

mi: si jatin muttsiko: (見るものでも 持って来い)

ta: gara jatin so:ti:?ike: (誰かで もつれていけ)

4) 並列助詞をうける。

?jaː tu wan tu jatin ?ika (君と私 とでも行こう)

maː nuja ?u∫i nuja jatin kaː n (馬やら牛やらでも食わない)

?ja: ka ?ari: ka jatin ∫imun(君か あれかでもよい)

ti: jara tsira: jara jatin ?arare: (手やら顔やらでも洗え)

ti: tuka Çisa tuka jatin ?arara n

(手とか足とかでも洗わない)

5) 格助詞をうける。

wan ga jatin nain (私がでもでき る)

ない)

nagu ne! jatin ne!n(名護にでもない) haki: ga jatin 7ika n (書きにでも 行かない)

ʧu: tu jatin ?ikun (他人とでも行く) фaru Dgati jatin ?idze: sa(畑へで も行ったに違いないよ)

tugutsi hara jatin kuin joi( 渡久地 からでも来るよ)

ti: si jatin sukora ri:n (手ででも 作れる)

tunai ne:ti jatin ?asibun (隣でで も遊ぶ)

φatarakun ri jatin ?i: ba ∫imu: sa (働くとでも言えばよい)

6) 副助詞をうける。

?uttu bake: jatin so:ti?ike:(弟ばか りでもつれていけ)

nagu mari: jatin 7ikun (名護までで も行く)

?imi niga: jatin mitse: sa (夢など でも見たんでしょう)

tJa:waki nre: jatin ho:tiko: (お茶 菓子でも買ってこい)

?an kure: jatin nari: ba ∫imu: sa (あのぐらいでもできるとよいのだが) ?an ?atai jatin nari: ba ja:(あの ぐらいでもできればね)

ti!ti na: jatin muttjiko! (一つずつ でも持ってこい)

?uppi ntfa: jatin simun (これぽっち でもいい)

sa:ta: tjun jatin ne:n (砂糖さえで もない)

7) 接続助詞 ba (ば), ga∫ina: (ながら)
 をうける。

haki: ba jatin simun te: (書くのであればよいのだが)

jumi gasina: jatin hakun (読みながらでも書く)

#### 【接する形式】

係助詞 ru (ぞ), ga (か)に接する。

?uttu jatin ru wuiru (弟でもいるのだ)

?uttu jatin ga wuira (弟でもいるの かしら)

# 5,係助詞

係助詞は文末と呼応関係を示す助詞で,他の いかなる助詞にも接しえない助詞である。

# 5, 1 ja (は)

ある対象を他と区別して提示するはたらきが ある。提示されるものは文の成分であり、また、 話手と聞手にとってよく知られているものであ る。提示された結果は、区別または対比の意が あらわれる。結びは終止形である。

#### 【うける形式】

1) 体言をうける。

wan ja ?ikun (私は行く)

ku: ja ?atsisen (今日は暑い)

ku: ja Çi:pi: jen (今日はよい日だ)

2) 活用語の連用形、接続形をうける。

haki ja sun (書きはする)

hatsi ja wura n (書いてはいない)

takaku ja neːn (高くはない) haka si ja sa n (書かせはしない) haka si ja wura n (書かせてはいな

haki buku ja neːn (書きたくはない)

3) 準体助詞をうける。

( ry

haku Ji ja neːn (書くのはない) taː gara ja soːtiʔikeː (誰かはつれ ていけ)

4) 並列助詞をうける。

φaru: tu ?umi tu ja ?ikun(畑と海 とは行く)

ti: nuja Çisa nuja ja ʔarajun (手や ら足やらは洗う)

7 ja: ka wan ka ja wura nne: nara n(君か私かはいなければならない)

kwa: jara ma:ga jara ja manri:n (子供やら孫やらは多い)

ma: tuka ?usi tuka ja tsu:sen (馬とか牛とかは強い)

5) 格助 詞をうける。

?ari: ga ja nain (彼〈が〉はできる) tui nu ja ka: n (鳥〈が〉は食わない)

tunai ne: ja wura n (隣にはいない) haki: ga ja ?ika n (書きには行かない)

?uja tu ja ?ika n (親とは行かない) ?umi Dgati ja ?ika n (海へは行か ない)

nagu hara ja kuin (名護からは来る) ?ari joikan ja takasen (あれよりは 高い)

kumi: Si ja sykora n (米では作らない)

φama neːti ja ?a∫iba n(浜では遊ばない)

hakun ri ja ?ja n (書くとは言わない)

6) 副助詞をうける。

mugi: bake: ja ka:ra n (麦ばかりは 食えない)

фaru mari: ja ?ikun (畑までは行く)

midzi niga: ja numun (水などは飲む)
midzi nre: ja nume: sa n ni:(水
などは飲みはしないか。水などは飲むでしょう)
nagu kure: ja takasen (名護あたりは高い)

7unu 7atai ja nain(これぐらいはできる)

ti:tji na: ja ki:re: (一つずつはあげなさい)

tJui ntJa: ja nokora n ( 一人だけは残 らない )

haku: ka ja wui ju:sa n (書くまではいることができない)

tunai tsun ja ?ika n (隣さえも行かない)

7) 接続助詞をうける。

?ja: mari: ?iki: ba ja nara n (君まで行くといけない)

?ari: ga wakai ne: ja jurusa n (彼がわかると許さない)

juφyti: ∫i ja ra: gara nu wasse: tu ja jara n gaja: (休んでいるいる のはどこか悪いからではなかろうか)

haki ga∫ina: ja juma ra n (書き ながらは読めない)

## 5, 2 n ( t)

同類のものが他にも共存していることを言外 に示しつつ, ある事柄を提示する。具体的には 次のように用いられる。

- 事情の類似したものが他にもあることを言 外に表わす。
- ② 事情の類似したものを列挙する。
- ③ 極端な場合を例示し、他の場合にも同様であることを表わす。
- ④ 予期されている程度を越えていたり、限界に達していたりすることを表わす。n(も)も終止形で結ぶ。

## [うける形式]

1) 体言をうける。

фana: n sakun (花も咲く。①の用法)?uja: n kwa: n ku:n (親も子も来る。②の用法)

mi \* 切i Dgwa \* n waka jun (三歳児もわかることだ。③の用法)

φυtiika n tfidzikun (二日も続く。④の 用法)

2) 活用語の連用形、接続形をうける。

haki: n sa: n (書きもしない)
hatfi n wura n (書いてもいない)
takaku n ne:n (高くもない)
taka sati n nubujun (高くても登る)
haka fi n sa n (書かせもしない)
haka tfi n wura n (書かせてもいない)
haki buku n ne:n (書きたくもない)
haki busati n haka n (書きたくても

3) 準体助詞をうける。

haku: si n wakara n (書くのもわからない)

takase: si n simun (高いのもいい)

ta: gara n wakara n (誰かもわからない)

#### 4) 並列助詞をうける。

?ja: tu ?uttu tu n mi:waki ju:sa n (君と弟とも見分けることができない)
?ari nuja фuri nuja n wakara n
(あれやらこれやらもわからない)

?uttu ka ∫idʒa ka n wakara n (弟か兄かもわからない)

nu: jara φui jara n wakara n (なんやらかんやらもわからない)

to:re: tuka mi:kkwa tuka n manri:n (兄弟とか甥姪とかも多い)

# 5) 格助詞をうける。

?ari: ga n nain (あれがもできる)
tui nu n ka: n (鳥がも食わない)
?ari ne: n ?jun (あれにもいう)
haki ga n ?ika n (書きにも行かない)
taru tu n ?ika n (誰とも行かない)
?umi Dgati n ?ikun (海へも行く)
tugutJi hara n ku:n(渡久地からも来る)
kikai Ji n sukojun(機械でも作る)
фama ne:ti n ?aJibun (浜でも遊ぶ)
?ja ri n ?jun (君ともいう)

# 6) 副助詞をうける。

kwa: n ja: bake: n ?ika ra n (子供の家ばかりも行けない)

ra: mari: n ?u:ti?ikun(どこまでもつ いていく)

kusa niga: n hain (草なども刈る) kusa nre: n tura: (草などでもとろう) ?an kure: n nara n (あのぐらいもで きない)

taba:ku ?atai n фuka n (煙草ぐら いも吸わない) ?iÇi na: n ki:ra n (少しずつもあげ なさい)

?uppi: ntfa: n ne:n (これぽっちもない)

haku: ka n ka: n (書くまでも来ない)

midgi tʃun numa n (水さえも飲まない)
7) 接続助詞 ba (ば), gaʃinaː (ながら)
をうける。

?ari: ja ?ika ba n ∫imun (彼は行 こうがかまわない)

keː gasinaː n ?jun (食べながらもいう)

#### 5. 3 run (なんぞ, さえ)

事柄を強調して示す。 runは条件文の中で用いられる傾向がある。 ja(は), n(も) と同じく、終止形で結ぶ。

# [うける形式]

# 1) 体言をうける。

dzi: run haki ju:si ne: simu siga (字さえ書ければよいのだが)

midʒi run numi ne: no:jun (水さえ 飲めばなおる)

2) 活用語の連用形、接続形をうける。

haki run ʃiː neː ʃimun joː(書きさえすればよい)

hat∫i run wui ne! ∫imun (書いてさ えおればよい)

takaku run 7ai ne: dʒoːtoː (高くさ えあれば上等だ)

haka si run si: ne: nara n (書か せなんぞしたらいけない)

haka tji run wui ne: nara n (書 かせてなんぞいたらいけない)

haki busa run ?ai neː hakeː(書き

たくなんぞあったら書け)

3) 準体助詞をうける。

?iku: ∫i run wui ne: tarume: (行 くのがいたら頼みなさい)

ra: gara run ʔidʒeːn teː(どこかなんぞ行ったにちがいない)

4) 並列助詞をうける。

?uttu tu ∫idʒa tu run wui ne: ∫imun(弟と兄とさえおればよい)

ma: nuja ?usi nuja run sikanai ne: ?itsunasiku nain (馬やら牛やらなん ぞ飼ったら忙しくなる)

?uja ka ʧoːreː ka run wui ne: ∫imun (親か兄弟かさえおればよい)

?ari jara ?uri jara run ?iki ne: sabi:ku nain (あれやらこれやらな んぞが行くと淋しくなる)

ti: tuka Çisa tuka run jamasi ne: nara n (手とか足とかなんぞ痛めた らいけない)

5) 格助詞をうける。

?ja: ga run haki ne: mattiga:ra n (君がさえ書けば間違わない)

tui nu run kei nei nara n (鶏が なんぞ食ったらいけない)

ja: neː run wui neː ∫imun (家にさ えいたらよい)

haki ga run ?idzeːn joː (書きになんぞ行ったにちがいない)

?uja tu run ?idzeːn joː (親となん ぞ行ったにちがいない)

?umi Đgati run ?iki neː nara n (海へなんぞ行ってはいけない)

nagu hara run ki: ne: simun (名護 からなど来たらよい) kikai ∫i run sykoi ne: he:∫en (機械でなど作ったら早い)

?umi neːti run ?aʃibi neː reːdʒi jeː sa(海でなど遊んでは大変だよ) jamun ri run ?iː neː jurusu ʃiga (痛いとなどいうと許すのだが)

6) 副助詞をうける。

dzin bake: run ∫ikai ne: nara n (お金ばかり使ってはいけない)

?uja mari: run kumara∫i ne: nara n (親までも困らせてはいけない)

tabaku niga: run фyki ne: nara n (煙草なんぞ吸うといけない)

saki nre: run numi ne: nara n (酒なんぞ飲むといけない)

?an kureː run nai neː ∫imun joː (あのぐらいなんぞできたらいいよ)

?an ?atai run nai ne: dʒo:to:(あ のぐらいなんぞできたら上等だ)

tiːtʃi naː run ?atai neː ʃimun joː (一つずつでも当るといいよ)

tiːʧi nʧaː run ʔai neː tara n (一つだけなんぞあると足りない)

ju: kuiru ka run ka n ne: ∫iwa sun(日が暮れるまで帰らないと心配する) ma:ga ʧun run ʔutʃuki ne: ∫imu

7) 接続助詞 ba (ば), ga∫ina:(ながら)
 をうける。

Jiga (孫さえおいておけばよいのだが)

haki: ba run nain te: (書かないといけないでしょう)

haki gasina: run jumi ne: wakajun (書きながら読むとわかる)

5,4 ru(ぞ)

事柄を強闘して示す。文末に一定の結びの形 を要求する。

#### [うける形式]

#### 1) 体言をうける。

dʒiː ru hakuːru (字を書くのだ) sumutji ru jumuːru (書物を読むのだ)

2) 活用語の連用形、接続形をうける。

haki ru su! ru (書くのだ)

hatji ru wuiru (書いているのだ) takaku ru ?airu (高いのだ)

takasati ru ?ateːn teː (高かったの でしょう)

haka si ru suːru (書かせるのだ)

haka ʧi ru wuiru (書かせているのだ)

haki busa ru 7airu(書きたいのだ)

# 3) 準体助詞をうける。

haku si ru ?airu (書くのがあるのだ) nu: gara ru ?airu (なにかがあるのだ)

4) 並列助詞をうける。

mami: tu re:kuni tu ru ?uiru(豆 と大根とを植えるのだ)

haja: nuja gusi: ki nuja ru muijuru (茅やらすすきやらが生えるのだ)

mami: ka ?akare:kuni ka ru ?uiru (豆か人参かを植えるのだ)

φa: jara jura jara ru mo:suru (葉やら豆やらを燃やすのだ)

∫ina tyka bubuːru tyka ru ∫ikairu (砂とか砂利とかを使うのだ)

#### 5) 格助詞をうける。

wan ga ru ʔikuːru (私が行くのだ) tui nu ru tubuːru (鳥が飛ぶのだ) jaː neː ru wuiru (家にいるのだ) haki ga ru ʔikuːru (書きに行くのだ) ʔuja tu ru ʔikuːru (親と行くのだ) фаги Ogati ru ikuːru (畑へ行くのだ)

「ikuːti hara ru keːtikuːru (仕事から帰って来るのだ)

wugi: si ru sykoiru (砂糖きびで作るのだ)

jaː neːti ru ?a∫iburu (家で遊ぶの だ)

hakun ri ru ?juːru (書くと言うのだ)

# 6) 副助詞に接する。

Siku: fi bake: ru su: ru (仕事ばかり するのだ)

?iːdʒima mariː ru ?ikuːru (伊江島 まで行くのだ)

saki niga: ru nure:ru (酒なんぞ飲んでいるのだ)

?imi nre: ru mitfe:ru (夢なんぞ見た んでしょう)

?an kure: ru nairu (あのぐらいしかできないのだ)

?un ?atai ru nairu (このぐらいしかできないのだ)

tiːti naː ru фaguːru (一つずつ配るのだ)

?uppi nʧaː ru nairu (これぽっちしかできないのだ)

niriru ka ru kaːteːru (飽きるほど 食べているのだ)

kysa jatin ru hati!ru (草でも刈り ているのだ)

#### 7)接続助詞に接する。

haki ba ru jeːru (書かないといけない)

haki ne: ru wakairu (書くとわかるの

だ)

haku siga ru wakara nru (書くけれ どもわからないのだ)

haku: tu ru wakairu (書くからわかるのだ)

haki gasina: ru jumu:ru (書きなが ら読むのだ)

以上のように、 ru (ぞ)は-ruの形( ru 係結形)で結ぶのが普通である。ただし、終助 詞で文を止める時は、 ru (ぞ) があっても、 -n (終止形)で結ぶ。

dgi: ru hakun jo: (字を書くのだよ) midgi: ru numun te: (水を飲むんでしょう)

?ami: ru фuin na: (雨が降るのか) ?ari: ga ru ?ikun ro!(彼が行くのだ ぞ)

また、準体形に終助詞がついた形ででも結ぶ。 ?ari: ga ru ?iku: mi (あれが行くの かね)

dzi: ru haku: sa (字を書くのだよ) nama ru ?iku: sa (今行くのだ)

# 5,5 ga(か)

疑問または不確かなことを表わす。文末は一raの形(ga係結形)で結ぶ。

#### [うける形式]

1) 体言をうける。

dgi: ga haku:ra (字を書くのかしら)
?ami: ga фuira (雨が降るのかしら)
?uttu ga takase:ra (弟が高いのかしら)
2) 活用語の連用形, 準体形, 接続形をうける。
haki ga su:ra (書くのかしら)
haku: ga su:ra (書いているのかしら)
hatfi ga wuira (書いているのかしら)

takaku ga 7aira (高いのかしら) takase: ga su:ra (高いのかしら) takasati ga sikara ra nra (高くて 使えないのかしら)

haka si ga su!ra (書かせるのかしら) haka tsi ga wuira (書かせているのか しら)

haki buse: ga suːra (書きたいのかし ら)

3) 準体助詞をうける。

haku si ga ?aira (書くのがあるのか しら)

nu: gara ga ?aira (なにかがあるのか しら)

4) 並列助詞をうける。

kwai tu hama tu ga mut¶i?iku²ra (鍬と鎌とを持って行くのかしら)

ti: nuja Çisa nuja ga ?araira (手やら足やらを洗うのかしら)

?uttu ka sidza ka ga wuira (弟か 兄かがいるのかしら)

ti: jara Çisa jara ga jamu:ra (手やら足やらが痛むのかしら)

?waː tyka maː tyka ga ∫ikanaira (豚とか馬とかを飼うのかしら)

5) 格助詞をうける。

taru: ga ga wuira (誰かがいるのかしら)

hadzi: nu ga фuku:ra (風が吹くのか しら)

ja: ne: ga wuira (家にいるのかしら) haki ga ga ?iku:ra (書きに行くのか しら)

?uja tu ga ?iku:ra (親と行くのかし ら) nagu Đgati ga ʔikuːra (名護へ行く のかしら)

φaru hara ga keľtikuľra (畑から帰ってくるのかしら)

?uja jo:kan ga ma∬e:ra (親よりよいのかしら)

kumi: ∫i ga sųkoira (米で作るのか しら)

tunai neːti ga ?a∫ibura (隣で遊ぶのかしら)

?ikun ri ga ?juːra (行くというのか しら)

6) 副助詞をうける。

dgi: bake: ga haku:ra (字ばかり書くのかしら)

tugutji mari: ga ?iku:ra (渡久地まで行くのかしら)

kusa niga: ga tuira (草などを取るのかしら)

?imi nre: ga mitfara (夢などを見たのかしら)

?umi kure: ga ?attjakura (海など行っているのかしら)

7an 7atai ga naira (あのぐらいしか できないのかしら)

ti**ːʧi na:** ga kiːra ( 一つずつあげる のかしら )

?uppi nʧa: ga ?aira (これだけしか ないのかしら)

ju: kuiru ka ga ka ntara (日が暮 れるまで来なかったのかしら)

mid3i tʃun ga neːnra (水さえないのか しら)

?uttu jatin ga wuta:ra (弟でもいた のかしら)

# 7) 接続助詞をうける。

haki: ba ga je:ra (書かなければならないのかしら)

haku tu ga wakaira (書くからわかる のかしら)

tubi ne: ga wakaira (飛ぶとわかるのかしら)

haki gasina: ga mi:ra (書きながら見るのか)

# 6,連体助詞

体言を修飾する。

#### 6,1 ga(が)

主として人名,人を表わす代名詞,代名詞的 に用いられた親族名称および体言などをうけて, それのかかっていく体言を修飾する。

# [うける形式]

1) 人名,人を表わす代名詞,代名詞的に用いられた親族名称および体言をうける。

gura: ga kwa: je: sa(五郎の子供だ) ?ari: ga mun ro: (あれのものだぞ) ?amma: ga kin ho:jun(母の着物を買う)

2) 準体助詞をうける。

kaku: Ji ga mun je: sa (書く人のものだ)

tui si ga mun ro: (取る人のものだ) 【接する形式】

体言に接する。

# 6,2 nu(の)

体言をうけて、それのかかっていく体言を修 飾する。

# 【うける形式】

#### 1) 体言をうける。

ma: nu ja: (馬の家) ki: nu jura (木の枝) ?i:bi n saki (指の先)

2) 準体助詞をうける。

haku: ∫i nu mun je: sa(書く人のものだ)

tui si nu mun ro! (取る人のものだぞ)

この表現が二人以上の聞手に向かってなされ,haku、Si (書く人),tui Si (取る人)が聞手の中の誰かをさす場合,いわゆる代名詞的に用いられた時は,haku、Si, tui Si は ga (が)でうけられる。ただし,これらが話手と関係なく,一般概念として用いられたときは,上記のように,nu (の)でうけられる。

nu: gara nu фuta (なにかの蓋) nu: gara nu fi:(なにかの巣)

3) 並列助詞をうける。

?uja tu kwa: tu nu naha (親と子との仲)

?u∫i nuja ma: nuja nu kusa:(牛や ら馬やらの草)

?ufiː ka piːdʒaː ka nu tfinuː(牛か 山羊かの角)

?uttu jara ∫idʒa jara nu mun (弟 やら兄やらのもの)

?uttu tyka ∫idza tyka nu mun (弟 とか兄とかのもの)

4) 格助詞をうける。

?uja tu nu ∫igu:tu nu ?ain (親と の仕事がある)

?uja Đgati nu mun (親へのもの) ?uja hara nu mun (親からのもの) ti: ji nu jigu:tu (手での仕事) фaru ne:ti nu kutu: (畑でのこと) ikun ri nu фana∫i: nu ?ain (行く との話がある)

ga ( が, 主格 ), nu ( の, 主格 ), ne ! (に ), ga ( に, 目的 ), jo!kan (より ) はうけえない。

5) 副助詞をうける。

wugi: bake: nu фaru: (砂糖きびばかりの畑)

фaru: mari: nu mit/i (畑までの道)
ki: niga: nu jura (木などの枝)
ma: nre: nu kusa (馬などの草)
?an kure: nu kwa: (あのぐらいの子供)
?an ?atai nu t/u: (あのぐらいの人)
t/assa na: nu mun je: ga (いくらぐらいのものか)

?uppi nt/a: nu mun (これぽっちのもの)
 ka(まで), t/un(さえ), jatin (でも)はうけえない。

6) 接続助詞 ga∫ina: (ながら)をうける。 ke: ga∫ina: nu φana∫i: (食べながらの 話)

?asibi gasina: nu kutu: (遊びながら のこと)

# 【接する形式】

体言に接する。

# 7,接続助詞

接続助詞は表現内容と表現内容を、時間的前・ 後関係や条件と帰結(原因と結果を含む)など で結びつけるはたらきがある。

7, 1 ba(ば)
 条件を表わす。

【うける形式】

# 1) 活用語の未然形をうける。

haka: ba mire: (書いたら見なさい) takasara ba nubura Dke! (高いならば 登るな)

haka sa ba simun(書かせたらいい) haki busara ba bake! (書きたければ 書け)

# 2) 活用語の条件形をうける。

haki: ba mire: (書けば見なさい) takasari ba nubui na jo!(高ければ 登るなよ)

haka si ba simun jo: (書かせばいい t)

haki busari ba hake! (書きたければ 書け)

#### [接する形式]

1) 並列助詞 tu(と), ka(か), tuka (とか)に接する。

haki: ba tu jumi: ba simun(書けば と読めばよい。書いて読めばよい)

haki: ba ka jumi: ba simun (書け ばか読めばよい)

hakiː ba tuka jumiː ba simun (書 けばとか読めばよい)

2) 格助詞 hara (から) に接する。

tatti ba hara ja naz sugu ?akkun (立てばからはもうすぐ)

?ukiri ba hara ja ?it∫una∫en (起き ればからは忙しい)

# 3) 副助詞に接する。

hakiː ba bakeː nain naː(書くことば かりでよいか。よくない)

haki: ba mari: re: gaja: (書けばま でであろうか)

#### わかるよ)

haki: ba tʃun ʃimu ʃiga (書きさえす ればよいのだが)

haki: ba jatin simun te:(書きでも すればよいものを)

# 4) 係助詞に接する。

haki ba ja nara n ∫iga (書いては いけないが)

?ari: ja haka ba n ∫imu: sa (彼 は書いてもいいさ)

haki: ba run si: ne: simu: sa (書きさえすればよい)

haki ba ru nairu (書かないといけな W)

haki ba ga je!ra (書かないといけな いだろうか)

#### 7, 2 ne:(と)

ある条件が備われば、必ずきまってある事柄 が成立するという場合に、その条件を示す。

# [うける形式]

活用語の連用形をうける。

haki ne: wakajun (書くとわかる) takaseː neː hoːi juːsa n (高いと買

うことができない)

haka Ji ne: wakajun (書かせるとわか) る)

haki buser ner haka sa n ner nara n (書きたければ書かさないといけな W)

# [接する形式]

1) 格助詞 hara (から) に接する。

haki neː hara ja heː∫en roː(書け ばからは早いぞ。書くとなると早いぞ)

?iki neː hara ja tumira ra n haki: ba niga: wakain jo: (書けば (行けばからは止められない。行くとなると止

# められない)

2) 副助詞 nigax (など) に接する。

haki neː nigaː nara n joː (書いた りするといけないよ)

?iki ne: niga: nara n (行ったりなど するといけない)

3) 係助詞に接する。

haki ne: ja nara n (書いてはいけない)

haki ne: n nara n (書いてもいけない)

haki ne: ru nairu (書かないといけない)

haki ne: ga naira (書かないといけないかしら)

# 7,3 figa (のに,けれども) 既定の逆接条件を示す。

# 【うける形式】

活用語の準体形をうける。

haku Jiga wakara n (書くけれどもわ) からない)

takase: siga turuka n (高いけれども届かない)

haka su siga haki ju:sa n(書かす けれども書けない)

jumi buse: siga jumi ju:sa n (読みたいけれども読めない)

#### [接する形式]

係助詞 ru(ぞ)に接する。

jumi ja jumu ∫iga ru wakara n (読みは読むけれどもわからない)

mi: ∫iga ru wakara n sa (見るけれ どもわからないのだ)

# 7, 4 munnu (ものを, のに)

既定の逆接条件を表わす。 ∫iga (けれども) と比較して、多少帰結部分に対して批評的態度: がこめられる。

# [うける形式]

活用語の連体形をうける。

hakun munnu haka n ri 7jun (書くのに書かないという)

taka∫en munnu takaku ne∶n ri 7jun (高いのに高くないという)

haka sun munnu haka sa n ri 7jun na:(書かせるのに書かないという)

haki busen munnu haka n na: (書きたいのに書かないのか)

#### 〔接する形式〕

他の助詞には接しえない。

#### 7,5 gut ui (のに)

既定の逆接条件を表わす。「現に~するのに」 という意がこめられている。

#### 【うける形式】

活用語の準体形をうける。

haku: gutui haka n ri ʔjun (書くのに書かないという)

takase: gutui takaku ne:n ri ?jun (高いのに高くないという)

?ika su gutui ?ika sa n ri ?jun (行かせるのに行かせないという)

?iki bu∫e: gutui ?iki buku ne:n ri ?jun(行きたいのに行きたくないという)

#### 【接する形式】

他の助詞には接しえない。

# 7,6 tu (から,ので)

ある事柄が原因・理由・きっかけとなり、そ

# の結果他の事柄が成立するという関係を表わす。 【 うける形式 】

活用語の準体形につく。

?ari: ga haku: tu wan ja haka n (彼が書くから私は書かない)

?ama ja taka∫e: tu ho:ra n (あそ こは高いから買わない)

?ari ne: haka su tu ?ja: ja ∫imun (彼に書かせるから君はよい)

?uri: ja jumi bu∫e: tu ho:jun (これは読みたいから買う)

#### 【接する形式】

副助詞 niga: (など,なんぞ)に接する。
 ra: gara nu wa∬e: tu niga: ru
 7ika n te: (どこかが悪いからなんぞ行かないんでしょう)

?ama Ŋgati ?ika n ∫i ja фadʒi ka∫e: tu niga: jara n gaja: (あそ こへ行かないのは恥しいからなどではなかろう か)

# 2) 係助詞に接する。

nimba n si ja ra: gara jamu: tu ja jara n gaja: (寝ないのはどこ か痛むからではなかろうか)

nama mari ninti: si ja ra: gara jamu: tu ru je:ru (今まで寝ているの はどこか痛むからなのだ)

ra: gara jamu: tu ga je:ra ja: (どこか痛むからであろうか)

# 7,7 gasina:,ganna:(ながら)

二つの動作・状態が共存する関係にあることを表わす。 gasina:と ganna:は全く同じように用いられる。

# 【うける形式】

活用語の連用形に接する。

haki gasina: jumun (書きながら読む)
takase: gasina: Çikusen ri ?jun
(高いながら低いという。高いのに低いという)
juma si gasina: nimbun (読ませなが
ら眠る)

haki buse: gasina: haka n (書きたいながら書かない)

#### 〔接する形式〕

1) 並列助詞に接する。

?iki ga∫ina: tu ke: ga∫ina: juin (行きながらと帰りながらよる)

?iki ga∫ina: nuja keː ga∫ina: nuja juin (行きながらやら帰りながらやらに よる)

?iki gasina: ka ke: gasina: ne: juin (行きながらか帰りながらによる) ?iki gasina: jara ke: gasina: ne: juin (行きながらやら帰りながらによる) ?iki gasina: tuka ke: gasina: ne: juin (行きながらとか帰りながらによる) 2) 格助詞に接する。

?iki ga∫ina: ne: ?i√yuku sa (行きながらに言っておくよ)

?iki ga∫ina: hara jamutan (行きながらから痛かった)

?iki ga∫ina: jo:kan ki: ga∫ina: ja ma∫i (行きながらより来ながらはよい) ?iki ga∫ina: ne:ti mit∫ukun (行きな

がらで見ておく) ?iki gasina: ri ?jun (行きながらと いう)

3) 副助詞に接する。

?iki ga∫ina: bake: ne: juin(行きながらばかりによる)

?iki ga∫ina: mari: ke:n (行きながら まで食べる)

?iki ga∫ina: niga: mutt∫iku:n (行きながらなどに持ってくるよ)

?iki ga∫ina: nre: jure: (行きながら でもよりなさい)

?iki gasina: kure: jure: (行きながらにでもよりなさい)

?iki ga∫ina: ?atai jure: ∫imun(行 きながらぐらいによればよい)

?iki ga∫ina: t∫un jura n (行きなが らさえよらない)

ke: ga∫ina: jatin jure: (帰りながら でもよりなさい)

# 4) 係助詞に接する。

haki ga∫na: ja jumi ju:sa n (書 きながらは読むことはできない)

haki gasna: n jumun (書きながらも 読む)

haki gasna: run jumi ne: ju: wakain (書きながらなんぞ読むとよくわかる) haki gasna: ru jumu:ru (書きながら読 むのだ)

haki ga∫na: ga jumu:ra (書きながら 読むのかしら)

# 7, 8 sakuːja (のなら)

仮定条件を表わす。

#### [うける形式]

活用語の連体形をうける。

hakun saku:ja he:ku hake: (書くのなら早く書け)

taka∫en saku:ja nubui na jo: (高 いのなら登るなよ)

haka sun sakulia helku haka sel

(書かすのであれば早く書かせなさい) haki bu∫en saku:ja he:ku hake:

(書きたいのなら早く書け)

#### 【接する形式】

他の助詞には接しえない。

# 7,9 te:kan,te:n,tin(ても)

既定の逆接条件を表わす。 telkan, teln, tinは, 語形はそれぞれ異なっても, 全く同じ ように用いられる。以下, telkan で 用 例 を 示す。

# [うける形式]

過去の終止形をうける。

?idʒan te:kan wura n (行ってもいない)

mitJan teikan wakara n (見てもわか らない)

haka ʧan te:kan jumi ju:sa n (書かせても読むことができない)

# 【接する形式】

他の助詞には接しえない。

# 8,終助詞

終助詞は文末にあって完結作用を表わす。完 結作用とは、文を文たらしめるもので、表現内 容と話手との関係づけをするものである。

# 8.1 ba:(わけ)

表現内容を当然のこととして聞手へ訴える意 を表わす。

#### [うける形式]

1) 動詞および動詞型助動詞の終止形, du係 結形をうける。

?ari: ga ?ikun ba: (彼が行くわけだ) ?ari: ga ru ?iku:ru ba: (彼が行く わけなんだ)

?uttu neː haka sun baː (弟に書かせるわけだ)

?uttu neː ru haka suru baː (弟に書かせるわけなのだ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形, du 係結形をうける。

?uri: ja takasen ba: (これは高いのだよ)

?uriː ga ru taka∫eːru baː (これが 高いのだよ)

?ariː ga ?iki bu∫en baː (彼が行き たいわけだ)

?ari: ga ru ?iki bu∫e:ru ba:(彼 が行きたいわけだよ)

## 【接する形式】

終助詞 ga(か, 疑問), na(か, 疑問), ro:(ぞ, よ), jo:(よ), te:(よ, ね), sa(さ, よ, ね), ja:(よ, ね), Ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼びかけ)に接する。

taru: ga ?ikun ba: ga (誰が行くのかね)

?ari: ga ?ikun ba: na: (彼が行くわけか)

?ariː ga ?ikun baː roː (彼が行くわ けだぞ)

?ari: ga ?ikun ba: jo: (彼が行くわけよ)

?ari: ga tuin ba: te: (彼が取るわけよ)

?ari: ga tuin ba: sa (彼が取るわけさ)

?ari: ga tuin ba: ja: (彼が取るわけよね)

wan ga hakun ba: Ça: (私が書くわけさ)

nan ga mo'jun ba: sai (あなたがい らっしゃるわけです)

# 8, 2 ∫iga (のに)

接続助詞 Jiga (けれども,のに)が終助詞化したものである。「~なのに~する」という意を表わし、希望や期待に反することが起こっていることに対して不満の気持をこめる場合に用いる。転じて、「~のはずだから~でなくてよい」の意を表わす場合もある。

# [うける形式]

1)動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。?arix ga haku ∫iga (彼が書くはずだよ)

?ariː ga haka su ∫iga (彼が書かせるはずだよ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

?uri: ja takase: siga (これは高いはずだよ)

?ari: ga ?iki bu∫e: ∫iga (彼が行き たいはずだよ)

# 〔接する形式〕

終助詞 na:(か, 疑問), ro:(ぞ,よ), jo:(よ), te:(よ,ね), ja:(よ,ね), ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼 びかけ)に接する。

?amiː nu фui ∫iga naː (雨が降るの にか)

?ami: nu фui ∫iga ro: (雨が降るの にだぞ)

?ujaː nu wui ∫iga joː (親がいるの だがね) ?uja: nu wui ∫iga te: (親がいるけれどもね)

nama ku: Siga ja: (今来るのにね) nama ku: Siga Ça: (今来るのにさ) nama ku: Siga sai (今来ますよ)

# 8,3 mu (ものを)

表現内容に対して「~するものを 」という詠 嘆的な感情を表わす場合に用いる。

#### [うける形式]

- 1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。 ?ari: ga jumu: mu (彼が読むものを) ?uttu ne: juma su: mu (弟に読ませ るものを)
- 2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

?ari: ja wakase: mu(彼は若いんだもの) ?ama Dgati ?iki buse: mu (あそこ へ行きたいんだもの)

#### 【接する形式】

終助詞 na:(か, 疑問), ro:(ぞ, よ), jo:(よ), te:(よ, ね), sa(さ, よ, ね), ja:(よ, ね), Ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼びかけ)に接する。

kusa: hai mu na: (草を刈るのにか) kusa: hai mu ro: (草を刈るものをだ ぞ)

kusax hai mu jo (草を刈るものをだよ)

?ami: фui mu te: (雨が降るものをね)

ね)
nama ku: mu sa (今来るものをさ)
nama ku: mu ja:(今来るものをね)
nama ku: mu ça:(今来るものをさ)
nama ku: mu sai(今来ますもの)

8,4 na(な)

禁止する意を表わす。

# [うける形式]

動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。

dzi: haku na jo: (字を書くなよ)
kusa: tui na jo: (草を取るなよ)
dzi: haka su na jo: (字を書かせるなよ)

#### [接する形式]

終助詞の ro:(ぞ,よ), jo:(よ), sa
(さ,よ,ね), ça:(目下への呼びかけ),
sai(目上への呼びかけ)などに接する。
kusa: tui na ro:(草を取るなよ)
dzi: haku na jo:(字を書くなよ)
?ama Ŋgati ?iku: na sa(そんならあ
そこへ行くな)
mane: haku: na Ça:(ここに書くなよ)

mane: haku: na Ça: (ここに書くなよ)
na: moːju na sai (もういらっしゃる
なよ)

# 8,5 ga(か)

疑問を表わす。

#### [うける形式]

- 1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。
  tan ga haku ga (誰が書くか)
  taru ne haka su ga (誰に書かせる
  か)
- 2) 形容詞および形容詞型助動詞の**準体形**をうける。

nu: nu takase: ga (なにが高いのか) nu: ke: buse: ga (なにが食べたいのか)

#### 〔接する形式〕

終助詞 jox(よ), tex(よ,ね), sa(さ, よ,ね), jax(よ,ね), çax(目下への呼 びかけ), sai(目上への呼びかけ)に接する。 taru: ga ?iku: ga jo:(誰が行くかよ) taru: ga ?iku: ga te:(誰が行くかね) nul hakul Qa sa (なにを書くのかね) nu: haku: ga ja! (なにを書くのかね) nul mil qa Cal (なにを見るのかね) nul mil Qa sai (なにを見ますか)

8. 6 gaia: (かしら) 詠嘆的に疑問を表わす。

## 【うける形式】

- 1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。 ?ari: ga haku: gaja: (彼が書くかしら) ?uttu neː haka su gaja: (弟に書か せるかしら)
- 2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をう ける。

?ama ja фukase: gaja: (あそこは深い かしら)

nama фataraki buse: gaja:(今働きた いかしら)

# [接する形式]

終助詞 te!(よ,ね), sa(さ,よ,ね), Çai(目下への呼びかけ), sai(目上への呼 びかけ)に接する。

tatsi su: gaja: te:(どうするかしらね) tatsi su: gaja: sa:(どうするかしらね) nu! su! gaja! ca! (なにをするかしら **ね**)

nu: su: gaja: sai (なにをしましょう かしらね)

8, 7 ban (~だね,~だよ,~だよね) 事柄をたしかにそうだと認める意を表わす。

#### [うける形式]

midzi ja numu ban (水は飲むんだね) ?uttu ia ?ika su ban (弟は行かせる よ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の進体形をう ける。

?ari: ja takase: ban (あれは高いんだ ta)

tan jatin mi buse ban (誰でも見 たいよ)

## 【接する形式】

終助詞 na x (か, 疑問), ja x (よ, ね), Ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼 びかけ)に接する。

?ari! ga ?iku ban na!(彼が行くのだ ね。そうでしょう?)

?ari: ga ?iku ban ja:(彼が行くよね) Sigu:tu su: ban Ca: (仕事をしますね) ?uttu nu wui ban sai(弟がいますよ)

8,8 mi (か)

相手に尋ね問う意を表わす。

# 【うける形式】

- 1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。 tiga:mi haku mi (手紙を書くか) tiga:mi haka su mi (手紙を書かせる のか)
- 2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をう ける。

?ama: ja nukuse: mi (あそこは暖いか) ?ami: фui gise: mi (雨が降りそうか)

## [接する形式]

終助詞 sa (さ, よ, ね), ja x (よ, ね), Çai(目下への呼びかけ), sai(目上への呼 びかけ)などに接する。

1) 動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。 7ja: ga haku: mi sa (君が書くかね)

?ja: haku: mi ja:(君が書くかね)
?ari: ga su: mi Ça:(あれがするものか)

nan ga moːju mi sai (あなたがいらっしゃいますか)

#### 8, 9 ti :(~していたか)

相手に尋ね問う。主に現時点より以前における動作・状態について尋ね問う意を表わす。

# 【うける形式】

動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。
 tiga:mi haku: ti: (手紙を書いていたか)

?uttu ne: ru haka su ti: (弟に書かせていたか)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

?ama: ja ?atsise: ti: (あそこは暑かったか)

nama ki: gi∫e: ti: (すぐ来そうであったか)

#### 【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), sai (目上への呼びかけ)などに接する。

?ja: wakai ti: sa (君を知っていたかね)

nan wakai bi: ti: sa (あなたを知っ ていましたか)

#### 8, 10 sami (かね)

念を押すかたちで相手に尋ね問う。

#### [うける形式]

動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。
 ja: ga jumu: sami(君が読むかね)
 ja: ga juma su sami(君が読ませる)

かね)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

?unu midʒi: ja tʃuraʃe: sami (この 水はきれいかね)

dʒi: haki gi∫e: sami (字を書きそうかね)

# 【接する形式】

終助詞 sa ( さ,よ, ね ), ja: (よ, ね ), sai (目上へのよびかけ ) などに接する。

?jaː ga jumuː sami sa (君が読むかね)

?ari: ga ?iku: sami ja: (彼が行く だろうね)

nafl ga jumi n∫e: sami sai (あな たがお読みになりますかね)

#### 8, 11 Se:(~でしょう)

「~だから~でしょう」という当然の帰結を 示し、聞手にも強く訴える意を表わす。

# 〔うける形式〕

動詞および動詞型助動詞の準体形をうける。
 ra: ?ari: ga ?iku ∫e: (ほら、彼がいくでしょう)

ra: ?uttu ?ika su se:(ほら, 弟を行かせるでしょう)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をうける。

mi∜i n takase: se:(見ても高いでしょう)

?ai ?i: ba ma∬e: ∫e: (こういうとう まくいくでしょう)

miri: ba jumi buse: se: (見れば読みたいでしょう)

## 【接する形式】

終助詞 sa ( さ, よ, ね ), ja ( よ, ね ), 2) 否定の助動詞をうける。 cal(目下への呼びかけ), sai(目上への呼 びかけ)などに接する。

miri ba wakai sa (見ればわか るでしょうよ)

haki! ba wakai se! ja!(書けばわか るでしょうね)

jumi: ba wakai ∫e: Ça:(読めばわか るでしょうが)

?i: ba su: ∫e: sai (言えばしますか 5a)

# 8, 12 ji:(ね)

聞手の同意を求める意を表わす。

#### 【うける形式】

動詞および動詞型助動詞の志向形をうける。

dzi: haka: ji: (字を書こうね)

kusa! tura ji! (草を取ろうね)

dzi: haka sa ji: (字を書かそうね)

# 【接する形式】

終助詞 sa ( さ, よ, ね ), sai ( 目上への 呼びかけ)などに接する。

dzi: haka: ji: sa (字を書こうね) na! ?ika ji! sa (もう行こうね) mid3i numa: ji: sai (水を飲みましょ うね)

# 8, 13 i, ni (か)

尋ね問う意を表わす。うける形式の末尾が n である場合は ni となり、それ以外の場合は i となる。

# [うける形式]

1) 動詞および動詞型助動詞の接続形をうける。 dgi: hatfi i (字を書いたか) tiga:mi haka tji i (手紙を書かせたか) ?uri: ja haku: ji ro: (これは書くも

mire: sa n ni (見るんじゃないか) masi ja ?ara n ni (よいではないか) 【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ja x (よ, ね), sai(目上への呼びかけ)などに接する。

?ama ne: ?are: sa n ni sa (あそこ にあるんじゃないかね) '

?antaː neː wureː sa n ni jaː(あ れたちのところにいるんじゃないかね) saki ja nume sa n ni sai (酒は

8, 14 ro:(ぞ,よ) 強調する意を表わす。

飲むのではないですか)

#### 【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の終止形,命令形 をうける。

dzi: hakun ro! (字を書くぞ)

dgi! haki ro! (字を書けよ)

?uttu фataraka sun ro! (弟を働かせ るぞ)

nama фataraka si ro: (今働かしなさ いよ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形をう ける。

?uri: ja takasen ro:(これは高いぞ) ?ami vui gisen ro (雨が降りそうだ ぞ)

3) 体言をうける。

mai roi(馬だぞ)

kuru i ma ro i (車だぞ)

4) 種々の助詞をうける。

準体助詞 ∫i (の)をうける。

# のだぞ)

?uri: ja muttsiį?iku: si ro: (これは 持っていくものだぞ)

並列助詞をうける。

naŋgi su: ∫i ja ?ja: tu wan tu ro (難儀するのは君とぼくとだぞ) so:ti?iku si ja ?uttu ka sidza ka ro! (つれていくのは弟か兄かだぞ) nama hara ?agai ∫i ja saki tuka tabaːku tuka ro: (これから値上りする

のは酒とか煙草とかだぞ)

格助詞をうける。

nuDkui ?ju: si ja ?ari: ga ro: (いろいろいうのは彼がだぞ)

?ai suː si ja tui nu roː (こうす るのは鷄がだぞ)

?juː si ja ?uja neː roː (言うのは 親にだぞ)

nama ja haki: ga ro: (今は書きにだ ぞ)

hatami: Si ja ?ja: tu ro: (かつぐ のは君とだぞ)

?urii ja ?uja Ŋgati ro! (これは親 へだぞ)

?uri: ja kwa: hara ro: (これは子供 からだぞ)

?amasu ∫i ja ?uttu joːkan roː (暴れるのは弟よりだぞ)

?a∫ibu ∫i ja фa: ne:ti ro:(遊ぶの は外でだぞ)

?ikun ri ro: (行くということだぞ) 副助詞をうける。

numu si ja midzi bake: ro: (飲む のは水ばかりだぞ)

はあれまでだぞ)

фagu: si ja ti:tsi na: ro:(配るの は一つずつだぞ)

#### 【接する形式】

終助詞 sa ( さ, よ, ね ), ja : ( よ, ね ), Çai(目下への呼びかけ), sai(目上への呼 びかけ)などに接する。

dāi hakun ro sa (字を書くぞ)

dxi: hakun ro! ja!(字を書くぞ)

na: ?ikun ro: Ça:(もう行くぞ)

na: ?ikun ro: sai(もう行きますぞ)

# 8, 15 jo:(よ,ね)

表現内容を聞手へやわらかい調子で伝えたり、 訴えたりする意を表わす。

#### 【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の終止形, 命令形, 志向形をうける。

dgi: hakun jo: (字を書くよ)

dgi: haki jo: (字を書けよ)

nama haka: jo:(今書こうよ)

ma: Dgati ka: sun jo: (ここへ来さ せるよ)

ma: Dgati ka: Ji jo: (ここへ来させ なさい)

ma: Ŋgati ka: sa jo: (ここへ来させ ようよ)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形をう ける。

?uri: ja takasen jo: (これは高い よ)

?ari: ga haki bu∫en jo: (彼が書き たいよ)

3) 体言をうける。

jubu: ∫i ja ?ari mari: ro:(呼ぶの ?uri: ja ?uttu jo:(これは弟だ

よ) saki nre! jo! (酒などだよ) ?ari: ja watta: ∫ima: jo:(あ ?an kure: jo: (あのぐらだよ) れは私たちの島だよ) ?an ?atai jo: (あのぐらだよ) 4) 種々の助詞をうける。 ti エʧi na i jo i (一つずつだよ) 準体助詞をうける。 tiːtʃi ntʃaː joː (一つだけだよ) ?uri: ja muttsi?iku: si jo: (これは 5) 次のように間投助詞的に用いられる。 持っていくものだよ) 副助詞をうける。 nu: gara jo: (なにかだよ) haku: ka jo: ka: ntan (書くまでね来 並列助詞をうける。 なかった) ?iku: ∫i ja ?ari tu wan tu jo: ?uttu ʧun jo: so:ti?ikan (弟さえね (行くのはあれと私とだよ) つれていかない) keː ʃi ja maː nuja ʔuʃi nuja joː tunai jatin jo: ?ika n ( 隣でもね行 (食うのは馬やら牛やらがだよ) かない) ?ui si ja mugi: ka ?awa: ka jo: 係助詞をうける。 (植えるのは麦か粟かだよ) ?ari! ja jo! nokoi sa (あれはね残 watasu ∫i ja t∫u: jara ni: jara るよ) jo! (渡すのは人やら荷やらだよ) ?ari: n jo: ?iku: sa (あれもね行 ?at∫imai ∫i ja ?uja tuka t∫o!re! (よ) tuka jo: (集まるのは親とか兄弟とかだよ) ?ari run jo: ?ut∫uki ne: ∫imuta: 格助詞をうける。 mu (彼なんぞねおいておけばよかったのだが) ?ari! ga jo! (彼がだよ) wugi: ru jo: ?uiru (砂糖きびをね植え るのだ) tui nu jo: (鶏がだよ) ?uja ne: jo: (親にだよ) tui ga ga jo: ke:ra (鶏がね食うのかしら) haki: ga jo: (書きにだよ) 接続助詞をうける。 ?uja tu jo: (親とだよ) haki: ba jo: masse: siga (書けばね tugutsi pgati jo! (渡久地へだよ) いいのだが) haki neː joː nara n siga (書くとね фaru hara jo: (畑からだよ) いけないが) ma: jo:kan jo: (ここよりだよ) ti: si jo: (手でだよ) haku siga jo: haka n ri ?jun(書 фama ne ti jo (浜でだよ) くのにね書かないという) 7ikun ri jo: (行くということだよ) haku: munnu jo: haka n ri ?jun 副助詞をうける。 (書くのにね書かないという) mid3i bake: jo: (水ばかりだよ) 7iku gutui joː 7ika n ri 7jun (行くのにね行かないという) nagu mari jo: (名護までだよ) midzi niga: jo: (水などだよ) ?ariː ga hakuː tu joː ?jaː ja∫imu: sa (あれが書くからね君はいいよ) ?iki ga∫ina: jo: juin (行きながらね よる)

?ikun saku:ja jo: he:ku ?ike:(行 くのならね早く行きなさい)

mitsan te:kan jo: wakara n (見て もねわからない)

#### 【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ja:(よ, ね), ça: (目下への呼びかけ), sai(目上への 呼びかけ)などに接する。

he:ku ?iki jo: sa(早く行けよね) ?ari: ga ?ikun jo: ja: (あれが行く よね)

mandzi haka: jo: Ça: (一緒に書こうよね)

?ari: ga hakun jo: sai (彼が書きますよ)

# 8, 16 te:(よ,ね)

「~にちがいないよ。きっと~だよ」などの意も表わし、ある事柄を確定的なこととして推定し、詠嘆的に聞手へ訴えるはたらきがある。 【うける形式】

- 1) 動詞および動詞型助動詞の終止形をうける。 ?ari: ga hakun te!(あれが書くよ) ?uttu ne! haka sun te!(弟に書かせるよ)
- 2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形をうける。

?ari: ja taka∫en te:(あれは髙いよ) ?ari: ga ?iki bu∫en te:(彼が行きた いよ)

3) 体言をうける。

tamun te! (薪だよ)

watta: te: (私達だよ)

4) 種々の助詞をうける。

準体助詞をうける。

haku: si te: (書くものだよ) nu: gara te: (なにかだよ)

並列助詞をうける。

kwa: tu ma:ga tu te:(子と孫とだよ) ?ari nuja фuri nuja te:(あれやら これやらだよ)

?ari: ka фuri: ka te: (あれかこれか だよ)

nu: jara фui jara te: (なにやらこえやらだよ)

?ja: tuka wan tuka te: (君とかぼく とかだよ)

格助詞をうける。

?ari: ga te:(あれがだよ)

tui nu te! (鶏がだよ)

?uja ne! te! (親にだよ)

haki: ga te: (書きにだよ)

?uja tu te: (親とだよ)

nagu Dgati te: (名護へだよ)

tugutsi hara te: (渡久地からだよ)

?ari jo:kan te! (彼よりかだ)

kumi: ∫i te: (米でだよ)

φama neːti teː (浜でだよ)

φatarakunrite: (働くということだよ)副助詞をうける。

midzi bake: te: (水ばかりだよ)

nagu mari: te! (名護までだよ)

saki niga: te: (酒などだよ)

tabaku nre: te! (煙草などだよ)

?an kure: te: (あのぐらいだよ)

?an ?atai te: (あのぐらいだよ)

ti:tji na: te: (一つずつだよ)

?uppi ntfa: te: (これぽっちだよ)

haku: ka te: (書くまでだよ)

?uja tJun te! (親さえだよ)

tso:re: jatin te! (兄弟でもだよ)

5) 次のように係助詞、接続助詞をうけて、間 投助詞的に用いられる。

係助詞をうける。

?ja: ja te: wutuke: (君はね居ておきなさい)

фaru Đgati n te: ?ika n sa (畑へも行かないよ)

?ari: ga run te: nai ne: ∫imu ∫iga (あれがでもねできるといいのだが) 接続助詞をうける。

haki ba te: mi:n jo: (書けばね見るよ)

haki ne: te: ∫imu ∫iga (書くとねいいのだが)

haku ∫iga te: wakara n (書くけれど もねわからない)

haku: munnu te: haka n ri ?jun (書くものをね書かないという)

haku: gutui te: haka n ri ?jun (書くのにね書かないという)

haku: tu te: mattyuke: (書くからね待っていて)

haki gasina: te: nakun (書きながね泣く)

hakun sakuːja teː heːku hakeː(書 くのならね早く書け)

hatjan te:kan te: wakara n (書いて もねわからない)

# [接する形式]

終助詞 sa ( さ, よ, ね ), ja ! ( よ, ね ), ça ! (目下への呼びかけ ), sa i (目上への呼

びかけ)などに接する。

?ari: ga ?ikun te: sa (あれが行くに ちがいないよ)

?ari: ga hakun te: ja: (あれが書く にちがいないよ)

?ami: nu фuin te: Ça: (雨が降るに ちがいないよ)

midzi numun teː saˈi (水を飲むにちがいないよ)

8, 17 na:(か)

やわらかく尋ね問う意を表わす。

#### [うける形式]

- 動詞および動詞型助動詞の終止形をうける。
   7ja: ga ?ikun na: (君が行くか)
   7ja: ga ?ika sun na (君が行かせるか)
- 2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形をうける。

?uri: ja taka∫en na:(これは高いか) ?ja: ga ?iki bu∫en na:(君が行きた いか)

3) 体言をうける。

?ari: ja dʒinan na (あれは次男か)
?iku: ʃi ja ?ja: na (行くのは君か)
4) 種々の助詞をうける。

準体助詞をうける。

?uri: ja haku: ∫i na (これは書くものか)

?uʧuku ∫i ja taka∫e: ∫i na (おい ておくのは高いものか)

並列助詞をうける。

kwai tu hama: tu na: (鍬と鎌とか) ma: nuja 7ufi nuja na: (馬やら牛や らか)

?uttu ka sid3a ka na! (弟か兄かな のか) kwa: jara ma:ga jara na: (子やら 孫やらか) mugi: tuka ?awa: tuka na: (麦とか 粟とかなのか) 格助詞をうける。 ?arii qa nai (彼がか) tui nu na! (鳥がか) ?uja neī naī (親にか) haki: ga na: (書きにか) ?uja tu na: (親とか) nagu Agati naz (名護へか) tuguti hara na! (渡久地からか) tugutli jo:kan na: (渡久地よりなのか) kumi: si na: (米でか) Φama ne ti na ( 浜でか ) hakun ri na』 (書くということか) 副助詞をうける。 ?uia bake: na: (親ばかりか) ?ari mari: na: (彼までもか) saki niga: na: (酒などをか) tabaku nre: na: (煙草などをか) ?an kure: na: (あのぐらいか) ?an ?atai na: (あのぐらいか) ti ti nai nai (一つずつか) ?uppi ntʃa: na: (これぽっちか) ke ru ka na (帰るまでなのか) midxi tsun na! (水さえもか) midzi jatin na! (水でもか) 係助詞 n(も)をうける。 ?ari: n na: (あれもか) 接続助詞をうける。

haki: ba na: (書けばなのか)

haki ne! na! (書くとなのか)

haku figa na: (書くけれどもなのか)
haku: munnu na: (書くのにか)
haku: gutui na: (書くのにか)
haku: tu na: (書くからか)
haki gafina: na: (書きながらか)
hatfan te:kan na: (書いてもなのか)
【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), Ça: (目下への呼びかけ), sai(目上への呼びかけ)に接する。

?ja: ga ?ikun na: sa (君が行くかね)

?ari: ga ?ikun na: ça: (彼が行くものか)

?ari: ga ?įkun na: sai (彼が行きますか)

# 8, 18 sa (さ, よ, ね)

断定する意を表わす。また、聞手への呼びか けも表わす。

#### [うける形式]

1) 動詞および動詞型助動詞の志向形, 命令形, 準体形をうける。

mandʒi haka: sa (一緒に書こうよ)
he:ku hake: sa (早く書けよ)
?ari: ga haku: sa (あれが書くさ)
mandʒi juma: sa sa (一緒に読まそう)
he:ku jama fe: sa (早く読ませなさい)
nama juma su sa (今読ませるよ)
2) 形容詞および形容詞型助動詞の準体形をう
ける。

?uri: ja taka∫e: sa (これは高いよ) ?ari: ga jumi bu∫e: sa (彼が読みたいよ) 3)体言をうける。

?uri hama sa (はい, 鎌だよ)

?uri фai sa (はい,針だよ)

4)種々の助詞をうける。間投助詞的用法である。 準体助詞をうける。

haku: sa muttsi?ike: (書くのさ持っていけ)

nu: gara sa muttii?jke: (なにかをさ 持っていけ)

並列助詞をうける。

?ja: tu wan tu sa ?ika n ne:
nara n (君と私とさ行かなければならない)
ma: nuja ?u∫i nuja sa manri:n
(馬やら牛やらさ多い)

?ja: ka wan ka sa ?ika n ne:
nara n (君か私かさ行かなければならない)
kwa: jara ma:ga jara sa manri:n
(子供やら孫やらさ多い)

ti: tyka çisa tyka sa ?arare: (手とか足とかさ洗いなさい)

格助詞をうける。

wan ga sa haku: sa (私がね書くさ)
ma: nu sa ke: su:ru(馬がさ食うよ)
?uja ne: sa ?jun jo:(親にさ言うよ)
haki: ga sa ?ikun jo: (書きにさ行

∫idʒa tu sa ʔikun joː (兄とさ行くよ)

фaru Đgati sa ʔikun joː (畑へさ行 くよ)

φaru hara sa ke'tikun jo'(畑から
さ帰ってくるよ)

?uttu joːkan sa taka∫eːn (弟よりか さ高い)

kumi: si sa sukoju se: (米でさ作るよ)

tunai neːti sa ʔaʃibun joː (隣で

さ遊ぶよ)

?ikun ri sa ?iː suːru (行くとさ言うでしょう)

副助詞をうける。

midzi bake: sa numa ra n (水ばか りさ飲めない)

?ari mari sa soːti?ikeː (彼までさつれていけ)

?oːφa niga: sa ?uire: (野菜などさ植 えなさい)

saki nre: sa ho:tiko: (酒などでも買ってこい)

?an kure: sa nai su:ru (あのぐらい ) はできる)

?an ?atai sa sa n ne: nara n (あのぐらいはしないといけない)

taːʧi naː sa kiːreː (二つずつさあげなさい)

?uppi ntfa: sa tura sa ra n (これっぽっちはあげられない)

haku: ka sa ka: ntan (書くまでね来なかった)

tsira tsun sa misi ra n (顔さえね見せない)

?uja jatin sa wakara n (親でもね わからなかった)

係助詞をうける。

?ja: ja sa wutuke: (君はね居ておけ)

?uri: n sa muttfi?ike: (これもね持っていけ)

?uri run sa ?ai ne: ∫imun(これさ えねあればよい)

ti: ru sa jamatse: ru (手をね痛めたのだ)

ti: ga sa jamatfara (手をね痛めた のかしら)

接続助詞をうける。

haki: ba sa wakajun (書けばねわかる)
haki ne: sa wakajun (書くとねわかる)
haku Jiga sa wakara n (書くけれど もわからない)

haku: munnu sa ?atfikajun na (書く ものをね叱るのか)

haku gutui sa ?atjikara りke: (書くのにね叱るな)

haku: tu sa simu: sa (書くからねいいさ)

haki gasina: sa jume: (書きながらね 読みなさい)

hakun saku: ja juma ike: (書くのならね読むなよ)

hatjan teːkan sa wakara n (書いて もねわからない)

#### 【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ja (ね, よ), ça:(目下への呼びかけ), sai(目上への呼びかけ)に接する。

?ari: ga haku: sa sa (あれが書くよね)

ku: ja фari: sa ja:(今日は晴れるよね)

?ari: ga ?iku: sa Ça: (彼が行くよね)

wan ga wui sa sai: (私がいますよ)

8, 19 je: (ね,よ)
 聞手への呼びかけを表わす。

#### [うける形式]

1) 動詞および動詞型助動詞の志向形,命令形,

終止形, du 係結形, ga 係結形などをうける。

d3i: haka: ja: (字を書こうね)

dgi: hake: ja: (字を書けよ)

?ari: ga hakun ja: (あれが書くね)

dzi: ru haku:ru ja:(字を書くのだね) dzi: ga haku:ra ja:(字を書くのかしら ね)

?uttu ne: haka sa ja: (弟に書かせるね)

?uttu ne: haka ∫e: ja: (弟に書かせなさいね)

?ari: ga haka sun ja: (彼が書かせるね)

dzi: ru haka suru ja: (字を書かせる のだね)

dgi: ga haka sura ja: (字を書かせる のかしら)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形, du 係結形, ga 係結形, 理由形などをうける。

?ari: ja ʧurasen ja: (あれはきれいだね)

?uri: ga ru ʧurase:ru ja: (これがきれいだよ)

nu: ga ga tʃuraʃeːra jaː (なにがき れいだろうかしらね)

?uri: ja takasanu ja: (これは高くてね)

taba:ku фuki busen ja: (煙草を吸いたいね)

taba:ku ru фuki buse:ru ja:(煙草を吸いたいのだね)

tabaːku ga þuki buʃeːra jaː(煙草を吸いたいのかしら)

tabaːku þuki busanu jaː(煙草が吸いたくてね)

3) 体言をうける。

?ukusu ∫i ja ?ja: ja: (起こすのは 君ね)

?ui ∫i ja ?umu: ja: (植えるのは芋 よね)

4) 種々の助詞をうける。間投助詞的用法である。

準体助詞をうける。

?uri: ja ∫ikai ∫i ja: (これは使うものね)

?atfikara ri: fi ja ta: gara ja: (叱られるのは誰かだね)

並列助詞をうける。

?ari: tu ?uri: tu ja: mutʧi?ike: (あれとこれとね持っていきなさい)

?ari nuja фuri nuja ja: ?i:kan— ∫in (あれやらこれやらね言いたてる)

?ari: ka ?uri: ka ja: so:ti?ike: (あれかこれかねつれていきなさい)

?ari jara фuri jara ja: manri:n (あれやらこれやらねたくさんある)

?ari tuka ?uri tuka ja: ho:iku-rusun (あれとかこれとかね買い続ける) 格助詞をうける。

?ari: ga ja: wakai sa (彼がねわか るさ)

mitji: nu ja: wasse: sa (道がね悪い さ)

?uja neː jaː ?juː sa (親にね言うよ)
miː ga jaː ?ikuː sa (見にね行くよ)
ruʃiː tu jaː ?aʃibun (友とね遊ぶ)
?umi 切gati jaː ?ikun (海へね行く)
nagu hara jaː kuːn(名護からね来る)
?ari joːkan jaː ʧuːʃen (あれよりね

強い)

kumi: ʃi ja: sukojun(米でね作る) tugutʃi ne:ti ja: ?aːjun(渡久地でね 会う)

wakajun ri ja: ?ju: sa (わかるとね いうよ)

副助詞をうける。

?uttu bake: ja: (弟ばかりね)

nagu mari: ja: (名護までね)

taba:ku niga: ja: фutfara ja nara n (煙草などね吸ってはいけない)

saki nre: ja: nurara ja nara n (酒などね飲んではいけない)

?an kure: ja: (あのぐらいだね)

?an ?atai jaː (あの程度だね)

ti:tsi na: ja: (一つずつね)

?uppi ntfa: ja: (これぽっちね)

ju:kuiru ka ja: ke:ra n (日が暮れ るまでね帰らない)

midzi tʃun ja: numa sa n (水さえね 飲まさない)

?uja jatin ja: mi∫ira n (親でもね見 せない)

係助詞をうける。

?ari: ja ja: ?ika n ro: (あれはね 行かないよ)

?ari: n ja: ?ika n ro: (あれもね 行かないよ)

?uri run ja: jara∫i ne: nara n (これでもね行かせたらいけない)

?uttu ru ja: mitfa:ru (弟をね見たのだ)

?uja ga ja: miʧa:ra (親をね見たのか しら)

接続助詞をうける。

haki: ba ja: sa (書けばねよ

いさ)

haki ne: ja: wakara n ro: (書くと ねわからないよ)

mi: siga ja: wakara n sa (見るけれどもねわからないさ)

mi: munnu ja: wakara n sa (見る ものをねわからないよ)

jamu gutui ja: ?ja n sa (痛いのに ねいわないよ)

wan ga haku: tu ja: ∫imu: sa(私 が書くからねいいよ)

?iki ga∫ina: ja: jure: (行きながらね よりなさい)

mi'n saku'ja ja' jonna' mire'(見 るのならねゆっくり見なさい)

mi**以**an teːkan jaː wakara n sa (見てもねわからないよ)

#### 【接する形式】

終助詞 sa (さ, よ, ね), ça: (目下への呼びかけ), sai (目上への呼びかけ)に接する。

?ari: ga hakun ja: sa (あれが書くよね)

?ari: ga hakun ja: Ça:(あれが書くよもう)

nama mi'n ja: sai (今見ますよ)

8, 20 ça:(目下への呼びかけ)

目下の聞手へはたらきかける意を表わす。

# [うける形式]

1) 動詞および動詞型助動詞の志向形,命令型, 終止形, du 係結形, ga 係結形をうける。

dzi: haka: Ça: (字を書こうよ)

dziː hakeː Çaː (字を書けよ)

dzi: hakun Ça: (字を書くよ)

dzi: ru haku:ru Ça:(字を書くのだよ)

dāi: ga haku:ra Ça:(字を書くのかしら)

dzi: haka sa ça: (字を書かそうよ)

dgi: haka se: ça: (字を書かせなさいよ)

dgi: haka sun ça:(字を書かせるよ) dgi: ru haka suru ça:(字を書かせる のだよ)

dzi: ga haka sura Ça: (字を書かせるのか)

2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形, du 係結形, ga 係結形をうける。

?uri: ja nagasen ça:(これは長いよ) ?uri ga ru nagase:ru ça:(これが長 いのだよ)

?uri ga ga naga∫eːra Çaː (これが 長いのかしら)

jaː ŋgati keː bu∫en Çaː (家へ帰り たいよ)

jaː Ŋgati ru keː bu∫eːru Çaː (家 へ帰りたいのだよ)

ja: Ŋgati ga ke: bu∫e:ra Ça: (家 へ帰りたいのかしら)

3) 体言をうける。

kuruima Çai(車だよ)

?ama Ça:(あそこだよ)

4) 種々の助詞をうける。間投助詞的用法である。

準体助詞をうける。

?uri: ja ?ui ∫i Ça: (これは売るものだよ)

ra: gara Ça: (どこかだよ)

並列助詞をうける。

∫ikai ∫i ja kwai tu hama: tu Ça:(使うのは鍬と鎌とだよ)

?ari nuja фuri nuja Ça: ?itʃunasanu (あれやらこれやら忙しくて) mugi: ka ?awa: ka Ca: ?uira n ne: nara n (麦か栗かね植えなくてはなら ない) kwa: jara ma:ga jara Ça: ?adzikira ri:n(子やら孫やらあづけられる) ti: tuka Çisa tuka Ça: ?arare: (手とか足とか洗いなさい) 格助詞をうける。 ?nttn Qa Cal (弟がだよ) ma: nu Ca: (馬がだよ) ?uja ne: Ça: (親にだよ) tui ga Ça: (取りにだよ) ?uja tu Ça! (親とだよ) nagu Dgati Ça: (名護へだよ) фaru hara Cai (畑からだよ) tJo:re: jo:kan Ça:(兄弟よりだよ) tiː si caː (手でだよ) φama ne:ti Ça: (浜でだよ) jumun ri Ça: (読むということだよ) 副助詞をうける。 ?ju: bake: Ça: (魚ばかりだよ) фaru mari: Ça: (畑までだよ) pi: niga: Ça: mutarara ja nara n (火などねもてあそんではいけない) ?umi nre: Ça: ?id3a:ra ja nara n (海などね行ってはいけない) tfira kure: Ça: ?arare: (顔などね洗 いなさい) 7an 7atai Ça: (あのぐらいだよ) ti!tʃi na: Ça: (一つずつだよ) ?uppi ntsa: Ça: ho:ra ri:n na ( ] れぽっちね買えるか。買えないという意)

haku: ka Ça: ka: ntan (書くまでね来

なかった) фanasi: tsun ça: sa n (話さえねしな W) ta: jatin Ça: so:ti?ike: (誰でもね つれていけ) 係助詞をうける。 ?ari: ja Ça: tʃu: sen (あれはね強い) ?ari: n Ca: tfu: sen (あれもね強い) ?ari run Ça: wa∬i ne: nara n (あれなんぞね忘れたらいけない) maja: nu ru Ça: ke:ru (猫がね食う のだ) maja: nu ga Ça: ke:ra (猫がね食う のかしら) 接続助詞をうける。 ki: ba Ça: ∫imu ∫iga (来ればねよい が) ki: ne: Ça: nara n ro: (来るとね いけないぞ) mi: Siga Ça: wakara n (見るけれども ねわからない) φataraku: munnu Ça: ?at∫ikajun na (働くものをね叱るのか) φataraku: gutui Ça: ?at∫ikara Dke: (働くのにね叱るな) wan ga ?iku: tu Ça: ∫imu: sa(私 が行くからねいいよ) ?akki gasina: Ça: juma Dke: (歩き ながらね読むよ) ?ikun saku:ja Ça: he:ku ?ike:(行 くのならね早く行け) mitJan te:kan Ça: wakara n(見ても ねわからない)

# 【接する形式】

終助詞 ja!(よ,ね)に接する。

tira nu tiːn Çaː jaː (太陽が輝るよね)

nama jumun Çaː ja: (今読むよね)

8, 21 sai (目上への呼びかけ)

目上の関手へはたらきかける意を表わす。 【うける形式】

1) 動詞および動詞型助動詞の志向形, 命令形, 終止形, du 係結形, ga 係結形をうける。

dzi: haka: sai (字を書きましょう)

nama haka sai (今書きます)

dzi: ru haku:ru sai(字を書くのです)

dʒiː ga hakuːra sai(字を書くのかしら)

dzi: hakjabira sai (字を書きましょう)

d3i: haki nso:re: sai (字をお書きにな

って下さい)

dgi: haki nso:jun sai(字をお書きになります)

 形容詞および形容詞型助動詞の終止形,du 係結形, ga 係結形をうける。

?ama: ja ?atʃi∫en sai (あそこは暑いです)

?ama: ru ?atsisse:ru sai (あそこが暑いのです)

?ama: ga ?atʃi∫e:ra sai (あそこが暑 いのかしら)

?ama Ŋgati ?iki bu∫en sai (あそこ へ行きたいです)

?ama Ŋgati ru ?iki bu∫eːru sai (あそこへ行きたいのです)

?ama Đgati ga ?iki bu∫eːra sai (あそこへ行きたいのかしら)

3) 体言をうける。

kuru:ma sai (車です) tudʒi sai (妻です) 4) 種々の助詞をうける。間投助詞的用法である。

準体助詞をうける。

?uriː ja hakuː ∫i sai (これは書く ものです)

?uri: ja ?ukui ∫i sai (これは送る ものです)

?ari: tu ?uri: tu sai (あれとこれ とです)

Sikanai Si ja ?wa: nuja pi:dʒa:
nuja sai (飼うのは豚やら山羊やらです)
so:ti?iku Si ja ?ari: ka ?uri:
ka sai (つれていくのはあれかこれかです)
?arai Si ja ?umu: jara re:kuni
jara sai (洗うのは芋やら大根やらです)
Sikai Si ja ?o:ra tuka hama tuー
ka sai (使うのは畚とか鏃とかです)

格助詞をうける。

?ari ga sai (彼がです。「誰が行くのか」 の問いに対して)

tui nu sai (鳥がです。「なにが食うのか」の問いに対して)

?uja ne: sai (親にです。「誰に言うのか」の問いに対して)

mi: ga sai (見にです。「どこへ」の問 · いに対して )

?uja tu sai (親とです。「誰と」の問い に対して)

?uja Đgati sai (親へです。「誰へ」の 問いに対して)

?uja hara sai (親からです。「誰から」 の問いに対して)

tyo:re: jo:kan sai (兄弟よりです。「誰: より」の問いに対して) ?usu: ∫i sai (海水でです。「なにで」 の問いに対して)

φaru ne:ti sai (畑でです。「どこで」
の問に対して)

hakun ri sai (書くということです) 副助詞をうける。

kiː bake: sai (木ばかりです)

ja: mari: sai (家までです)

ko i ju i niga i sai (鯉なんぞです)

tfa: nre: sai numi nso:re: (お茶でも飲んで下さい)

?an kure: sai (あのぐらいです)

?an ?atai sai (あの程度です)

ta:tfi na: sai (二つずつです)

?uppi nʧa: sai (これぽっちです)

jukuiru ka sai (日が暮れるまでです)

tJoːre: tJun sai (兄弟さえです)

tʃoːreː jatin sai (兄弟でもです)

係助詞をうける。

?ari: ja sai nara n ∫iga (あれは です。だめですよ)

7ari: n sai (あれもです)

?ari run sai wassi: ne: nara n (あんなんぞです, 忘れるといけない)

接続助詞をうける。

haki: ba sai sima bi: siga (書けばです、いいのですが)

haki ne: sai nai bira n Siga (書くとです, いけませんが)

mi: siga sai wakai jabira n (見るけれどもです, わかりません)

haku: munnu sai Jimi:ru su:ru(書 くものをです, いいじゃありませんか)

naku: tu sai mattyki nso:re: (泣 くからですね, 待っていて下さい) ?akki gaʃina: sai фanaʃi: ʃi nsoːreː(歩きながらですね, 話して下さい)
moːjun sakuːja sai heːku moːre:
(いらっしゃるならですね, 早くいらして下さい)

mi**以**an teːkan sai wakai jabira n (見てもですね,わかりません)

#### [接する形式]

他の終助詞には接しえない。

8, 22 ba (感動を伴って聞手へ訴える)

軽い驚き、または感動を伴って、関手へはたらきかける。

#### [うける形式]

1) 動詞および動詞型助動詞の志向形, 命令形, 終止形, du 係結形, ga 係結形などをうける。

ʃikuːtʃi saː ba (仕事しようよ)

∫ikuːtʃi ∫eː ba (仕事しなさいよ)

∫ikuːtʃi sun ba (仕事するよ)

фataraki: ru suːru ba (働くのだよ) фataraki: ga suːra ba (働くのかしら) maː Ŋgati kaː sa ba (ここへ来させ ようよ)

ma: Đgati ka: ʃe: ba (ここへ来させなさいよ)

ma: Đgati ka: sun ba (ここへ来させるよ)

ma: Ŋgati ru ka: suru ba (ここへ来させるのだよ)

ma: Ŋgati ga ka: sura ba (ここへ 来させるのかしら)

 2) 形容詞および形容詞型助動詞の終止形, du 係結形, ga 係結形をうける。

mitfi: nu tfurasen ba (道がきれいだ よ) miti: ru tjurase: ru ba (道がきれいなのだよ)

mitfi: ga tfurase:ra ba (道がきれいなのかしら)

tigaːmi haki buʃen ba (手紙を書きたいよ)

tigaːmi ru haki buʃeːru ba ( 手紙 を書きたいのだよ )

tiga:mi ga haki buse:ra ba (手紙を書きたいのかしら)

3) 体言をうける。

?uriː ja ?ja: ∫ikuːtʃi ba (これは君 の仕事だよ)

?attʃaː ja nagu ba (明日は名護だよ)

4) 種々の助詞をうける。間投助詞的用法である。

準体助詞をうける。

?uri: ja hajasu ∫i ba (これは運ぶ ものだよ)

ra: gara ba (どこかだよ)

並列助詞をうける。

nokoi ∫i ja ʔja: tu wan tu ba (残るのは君と私とだよ)

hajasu Si ja Sina nuja buburu nuja ba (運ぶのは砂やら砂利やらだよ) nokoi Si ja 7jar ka wan ka ba (残るのは君か私かだよ)

?uri ke: Si ja ?wa: jara pi:dʒa: jara ba (これを食うのは豚やら山羊やらだ よ)

∫ikanai ∫i ja ma: tuka ?u∫i tuka ba (飼うのは馬とか牛とかだよ)

格助詞をうける。

?ariː ga ba (彼がだよ。「誰が」の問い に対して) tui nu ba (鳥がだよ。「なにが」の問い に対して)

?uja ne: ba (親にだよ。「誰に」の問い に対して)

mi: ga ba (見にだよ。「なにしに」の問いに対して)

?uja tu ba (親とだよ。「誰と」の問い に対して)

?uja Dgati ba (親へだよ。「誰へ」の問いに対して)

tugutsi hara ba (渡久地からだよ。「ど こから」の問いに対して)

∫iːkwaː?ui joːkan ba (西瓜よりだよ。 「なにより」の問いに対して)

hama: ʃi ba (鎌でだよ。「なにで」の問いに対して)

ja: ne:ti ba (家でだよ。「どこで」の 問いに対して)

?ikun ri ba (行くということだ) 副助詞をうける

jama bake: ba (山ばかりだよ)

?uttu mari: ba (弟までだよ)

tyu: niga: ba ?atjikatara ja nara n (他人なんぞをね, 叱ったらいけない)

tabaku nre: ba фutjara ja nara n (煙草などね,吸ってはいけない)

?an kure: ba (あの程度だよ)

7an 7atai ba (あのぐらいだよ)

taːtʃi naː ba (二つずつだよ)

?uppi ntʃaː ba (これぽっちだよ)

tudʒumiru: ka ba ka: ntan (仕上げるまで来なかった)

tunai **t**yun ba (隣さえだよ) tunai jatin ba (隣でもだ) 係助詞をうける。 ?ja: ja ba wure:(君はね,いなさい)
?ja: n ba wure:(君もね,いなさい)
?ari run ba jara∫i ne: nara n
(あれなんぞね,行かせたらいけない)
dʒi: ru ba haku:ru (字をね,書くのだ)
dʒi: ga ba haku:ra (字をね,書くのかしら)

接続助詞をうける。

miri: ba ba wakaju sa (見ればね, わかるさ)

mi: ne: ba wakaju sa (見るとね,わかるさ)

mi: ∫iga ba wakara n (見るけれどもね, わからない)

mi: munnu ba mira n ri ?jun (見るものを見ないという)

ke: gutui ba ka: n ri ?jun (食うのにね,食わないという)

?ari: ga ?iku: tu ba ?ja: ja ʃi-mu: sa (あれが行くからね君はいいよ)
jumi gaʃina: ba hake: (読みながらね
書きなさい)

hakun saku ja ba he ku hake (書 くのならね早く書きなさい)

mitjan teːkan ba wakara n (見ても ねわからない)

終助詞をうける。

?ari: ga ?iku ban ba (あれが行く

よほら)

?ari: ga ?ikun ro: ba (あれが行く ぞほら)

?ariː ga sun joː ba(彼がするよね) nama ?ikun teː ba (今行くよね)

?ari: ga haku: sa ba (あれが書くよ) ?ari: ga ?ikun ça: ba (あれが行くよ) 【接する形式】

他の終助詞には接しえない。